

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

## 農 薬 抄 録

レピメクチン  
(殺虫剤)

(作成年月日) 平成18年5月30日  
平成19年1月15日改訂  
平成20年5月27日改訂  
平成21年5月8日改訂  
平成22年8月26日改訂  
平成24年2月20日改訂  
平成25年9月4日改訂  
平成26年8月28日改訂  
平成28年3月1日改訂  
平成28年9月16日改訂

(作成会社名) 三井化学アグロ株式会社  
(作成責任者・所属)

(会社名)
連絡先 三井化学アグロ株式会社

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

## 目 次

	頁
I. 開発の経緯	1
II. 物理的・化学的性状	2
III. 生物活性	26
IV. 適用及び使用上の注意	29
V. 残留性	34
VI. 有用動植物等に及ぼす影響	63
VII. 使用時安全上の注意、解毒法等	85
VIII. 毒 性	86
1. 原 体	
(1) 急性毒性	94
(2) 皮膚及び眼に対する刺激性	99
(3) 皮膚感作性	101
(4) 急性神経毒性	103
(5) 急性遅発性神経毒性	104
(6) 90日間反復経口投与毒性	105
(7) 21日間反復経皮投与毒性	120
(8) 90日間反復吸入毒性	121
(9) 反復経口投与神経毒性	122
(10) 28日間反復投与遅発性神経毒性	126
(11) 1年間反復経口投与毒性及び発がん性	127
(12) 繁殖毒性及び催奇形性	163
(13) 変異原性	175
(14) 生体機能への影響	183
2. 原体混在物及び代謝物	
(1) 急性経口毒性	188
(2) 変異原性	211
3. 製 剤	
(1) 急性毒性	281
(2) 皮膚及び眼に対する刺激性	287
(3) 皮膚感作性	291
4. 参考 (L. A3 及び L. A4)	
(1) 急性毒性	295
(2) 変異原性	299
IX. 動物及び土壌等における代謝分解	305

[付] レピメクチンの開発年表

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

## 1. 開発の経緯

### 1. 起源及び発見の経緯

三井化学アグロ(株)[当時、三共(株)]は、を出発原料とし、農業害虫を対象とした誘導体に関する研究を開始した(平成3年)。はハダニ類に対して極めて高い活性を有する。一方、一部を除いた害虫に対する殺虫活性はさほど高くはない。誘導体の展開により、農業害虫に高い活性を有する化合物に到達する筈とのアイデアであった。

精力的な誘導体展開研究の中から、殺虫スペクトラム、圃場での効果、経済合成性、安全性、環境科学の研究等の検討により、レピメクチン(E-237)を開発・上市に値する化合物として選抜した。レピメクチンは野菜、果樹、茶、花卉を加害する鱗翅目、アザミウマ目、双翅目、半翅目、鞘翅目害虫等に対して高い効果を示す(生物活性の項(III)参照)。また、速効的に殺虫効果を発揮する。一方、訪花昆虫であるミツバチ、マルハナバチ、マメコバチに対する影響は、実用散布濃度では低い～認められない。

### 2. 開発の経緯

平成13年から実施した新農薬実用化試験(日本植物防疫協会)では、野菜・柑橘・茶場面ではSI-0009乳剤を、落葉果樹場面ではSI-0205フロアブルを供試した。本試験では、鱗翅目害虫を中心とした種々の害虫に対して、少ない投下薬量で高い実用的な効果が確認されている。また、薬害面でも安全であることが確認された。

動物に対する各種の毒性試験、動植物及び土壌等における代謝試験、環境中での動態試験等を行い、レピメクチンの安全性を確認した。

作物栽培現場では複数種の害虫が、同時に発生することが多い。殺虫スペクトラムの広い本剤は、複数の害虫の同時防除、特に鱗翅目害虫とその他害虫との同時防除に有効である特長を持つ。その生物活性、環境中での速い分解性および人畜に対する低い急性毒性の点から、本剤は、特に施設栽培作物場面で今後要望が高くなる総合防除(IPM)に適した剤と位置づけることが可能である。

なお、本剤はJMPRで未評価であり、米国、豪州、EU、カナダ、ニュージーランドの5ヶ国・地域で登録がなく、ADI及びARfDの設定もない。

### 3. 諸外国での開発

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

## II. 物理的・化学的性状

### 1. 有効成分の名称及び化学的構造

#### 1) 一般名

レピメクチン・Iepimectin (ISO名)

レピメクチンは E-241 (レピメクチン A3、Iepimectin A3 [L.A3]) と E-909 (レピメクチン A4、Iepimectin A4 [L.A4]) との混合物である。

#### 2) 別名

商品名：アニキ乳剤、アニキフロアブル

試験名：E-237、CM-002X、 E-241 [L.A3]、AYK-0241、 E-909 [L.A4]、ATP-1909  
SI-0009 乳剤、SI-0205 7077 ムル

#### 3) 化学名 (MAFF名)

L.A3 [E-241]	L.A4 [E-909]
(10E,14E,16E,22Z)-(1R,4S,5'S,6R,6'R,8R,12R,13S,20R,21R,24S)-21,24-ジヒドロキシ-12-[(2Z)-2-メトキシイミノ-2-フェニルアセトキシ]-5',6',11,13,22-ペンタメチル-3,7,19-トリオキサテトラシクロ[15.6.1.1 <sup>4,8</sup> .0 <sup>20,24</sup> ]ヘンタコサ-10,14,16,22-テトラエン-6-スピロ-2'-テトラヒドロピラン-2-オン	(10E,14E,16E,22Z)-(1R,4S,5'S,6R,6'R,8R,12R,13S,20R,21R,24S)-6'-エチル-21,24-ジヒドロキシ-12-[(2Z)-2-メトキシイミノ-2-フェニルアセトキシ]-5',11,13,22-テトラメチル-3,7,19-トリオキサテトラシクロ[15.6.1.1 <sup>4,8</sup> .0 <sup>20,24</sup> ]ヘンタコサ-10,14,16,22-テトラエン-6-スピロ-2'-テトラヒドロピラン-2-オン
(10E,14E,16E,22Z)-(1R,4S,5'S,6R,6'R,8R,12R,13S,20R,21R,24S)-21,24-dihydroxy-12-[(2Z)-2-methoxyimino-2-phenylacetoxy]-5',6',11,13,22-pentamethyl-3,7,19-trioxatetracyclo[15.6.1.1 <sup>4,8</sup> .0 <sup>20,24</sup> ]pentacos-10,14,16,22-tetraene-6-spiro-2'-tetrahydropyran-2-one	(10E,14E,16E,22Z)-(1R,4S,5'S,6R,6'R,8R,12R,13S,20R,21R,24S)-6'-ethyl-21,24-dihydroxy-12-[(2Z)-2-methoxyimino-2-phenylacetoxy]-5',11,13,22-tetramethyl-3,7,19-trioxatetracyclo[15.6.1.1 <sup>4,8</sup> .0 <sup>20,24</sup> ]pentacos-10,14,16,22-tetraene-6-spiro-2'-tetrahydropyran-2-one

#### 4) 化学名 (ISO 提案 IUPAC名)

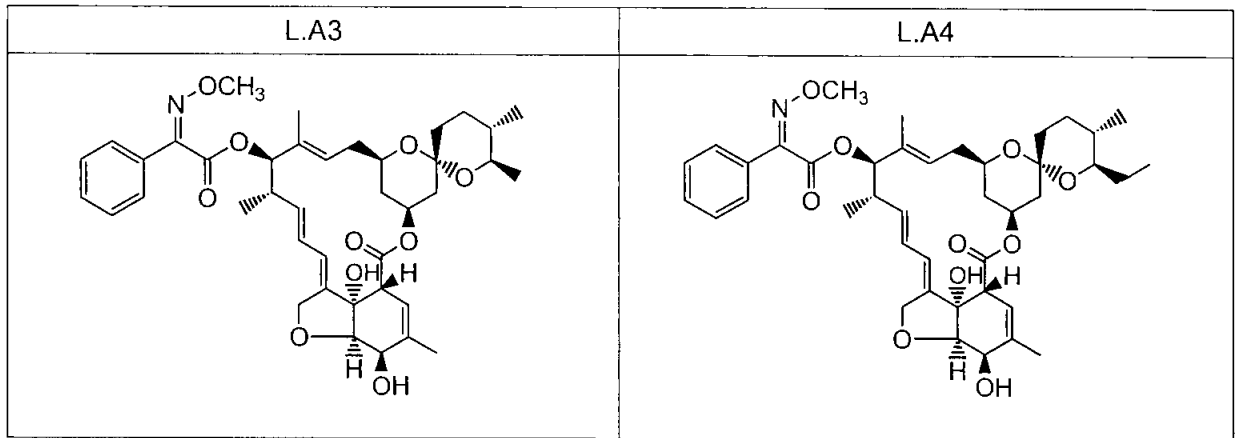
L.A3 [E-241]	L.A4 [E-909]
(10E,14E,16E)-(1R,4S,5'S,6R,6'R,8R,12R,13S,20R,21R,24S)-21,24-ジヒドロキシ-5',6',11,13,22-ペンタメチル-2-オキソ-3,7,19-トリオキサテトラシクロ[15.6.1.1 <sup>4,8</sup> .0 <sup>20,24</sup> ]ヘンタコサ-10,14,16,22-テトラエン-6-スピロ-2'-テトラヒドロピラン-12-イル (Z)-2-メトキシイミノ-2-フェニルアセレート	(10E,14E,16E)-(1R,4S,5'S,6R,6'R,8R,12R,13S,20R,21R,24S)-6'-エチル-21,24-ジヒドロキシ-5',11,13,22-テトラメチル-2-オキソ-3,7,19-トリオキサテトラシクロ[15.6.1.1 <sup>4,8</sup> .0 <sup>20,24</sup> ]ヘンタコサ-10,14,16,22-テトラエン-6-スピロ-2'-テトラヒドロピラン-12-イル (Z)-2-メトキシイミノ-2-フェニルアセレート
(10E,14E,16E)-(1R,4S,5'S,6R,6'R,8R,12R,13S,20R,21R,24S)-21,24-dihydroxy-5',6',11,13,22-pentamethyl-2-oxo-3,7,19-trioxatetracyclo[15.6.1.1 <sup>4,8</sup> .0 <sup>20,24</sup> ]pentacos-10,14,16,22-tetraene-6-spiro-2'-tetrahydropyran-12-yl (Z)-2-methoxyimino-2-phenylacetate	(10E,14E,16E)-(1R,4S,5'S,6R,6'R,8R,12R,13S,20R,21R,24S)-6'-ethyl-21,24-dihydroxy-5',11,13,22-tetramethyl-2-oxo-3,7,19-trioxatetracyclo[15.6.1.1 <sup>4,8</sup> .0 <sup>20,24</sup> ]pentacos-10,14,16,22-tetraene-6-spiro-2'-tetrahydropyran-12-yl (Z)-2-methoxyimino-2-phenylacetate

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

5) 化学名 (CA 名)

L.A3 [E-241]	L.A4 [E-909]
(6 <i>R</i> ,13 <i>R</i> ,25 <i>R</i> )-5- <i>O</i> -デメチル-28-デオキシ-6,28-エポキシ-13-[[[(2 <i>Z</i> )-2-(メトキシイミノ)-2-フェニルアセチル]オキシ]-25-メチルミルベマイシン B	(6 <i>R</i> ,13 <i>R</i> ,25 <i>R</i> )-5- <i>O</i> -デメチル-28-デオキシ-6,28-エポキシ-25-エチル-13-[[[(2 <i>Z</i> )-2-(メトキシイミノ)-2-フェニルアセチル]オキシ]ミルベマイシン B
(6 <i>R</i> ,13 <i>R</i> ,25 <i>R</i> )-5- <i>O</i> -demethyl-28-deoxy-6,28-epoxy-13-[[[(2 <i>Z</i> )-2-(methoxyimino)-2-phenylacetyl]oxy]-25-methylmilbemycin B	(6 <i>R</i> ,13 <i>R</i> ,25 <i>R</i> )-5- <i>O</i> -demethyl-28-deoxy-6,28-epoxy-25-ethyl-13-[[[(2 <i>Z</i> )-2-(methoxyimino)-2-phenylacetyl]oxy]milbemycin B

6) 構造式



7) 分子式

L.A3	L.A4
$C_{40}H_{51}NO_{10}$	$C_{41}H_{53}NO_{10}$

8) 分子量

L.A3	L.A4
705.83	719.86

9) CAS No.

L.A3	L.A4
1016160-53-4	950999-51-6

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

2. 有効成分の物理的・化学的性状

項目	測定値 (測定条件)		測定方法等	
	レピメクチン			
	L. A3	L. A4		
色調・形状・臭気	類白色不定形結晶・無臭		官能法 三共(株) 1999年	
密度	1.155g/cm <sup>3</sup> (20±1°C)		比重びん法 (財)化学物質評価研究機構 2005年 GLP	
	1.068g/cm <sup>3</sup> (20±1°C)	1.173g/cm <sup>3</sup> (20±1°C)		
融点	153.8~155.5°C	152.3~154.0°C	溶融顕微鏡法 三共(株) 1999年 GLP	
沸点	測定不能	測定不能	毛細管法 (財)化学物質評価研究機構 2005年 GLP	
蒸気圧	<2.97×10 <sup>-6</sup> Pa (80°C)	<4.78×10 <sup>-6</sup> Pa (80°C)	気体流動法 (財)化学物質評価研究機構 2005年 GLP	
溶解度 有機溶媒	水	103.47ppb (20±0.5°C)	46.79ppb (20±0.5°C)	OECD 105 加水溶出法 三共(株) 1997年 GLP
	トルエン	>250g/L (20°C)	>250g/L (20°C)	12農産第8147号 OECD 105 三共アグロ(株) 2005年 GLP
	ジクロロメタン	>250g/L (20°C)	>250g/L (20°C)	
	アセトン	>250g/L (20°C)	>250g/L (20°C)	
	メタノール	>250g/L (20°C)	>250g/L (20°C)	
	酢酸エチル	>250g/L (20°C)	226.90g/L (20°C)	
	n-ヘキサン	4.43g/L (20°C)	0.89g/L (20°C)	
解離定数	測定不能	測定不能	12農産第8147号 三共アグロ(株) 2005年 GLP	
分配係数 (n-オクタン-1/水)	log Pow = 6.5 (25°C)	log Pow = 7.0 (25°C)	12農産第8147号 OECD 117 HPLC法 三共アグロ(株) 2004年 GLP	
土壌吸着係数	K 16.5082~64.0619 Koc 313~10169 (25±1°C)	K 71.8621~154.0281 Koc 1423~19546 (25±1°C)	12農産第8147号 OECD 106 三共アグロ(株) GLP 2005年(L. A3) 2006年(L. A4)	
安定性	熱	227.2°Cまで安定	228.8°Cまで安定	三共(株) 1999年 GLP
	加水分解性	半減期(25°C) 71.6日 (pH4.0) 71.6日 (pH7.0) 56.8日 (pH9.0)	半減期(25°C) 75.2日 (pH4.0) 86.0日 (pH7.0) 97.1日 (pH9.0)	9農産第5089号 OECD 111 三共(株) 2000年 GLP
		半減期(37°C) 11.5日 (pH4.0) 23.5日 (pH7.0) 11.7日 (pH9.0) 6.2日 (pH1.2)	半減期(37°C) 14.8日 (pH4.0) 36.7日 (pH7.0) 22.5日 (pH9.0) 5.4日 (pH1.2)	
水中光分解性	滅菌蒸留水	半減期1時間以内 (25±3°C, 100w/m <sup>2</sup> , 300~700nm)	半減期約1時間 (25±3°C, 100w/m <sup>2</sup> , 300~700nm)	9農産第5089号 三共(株) 1999年 GLP
	自然水	半減期1時間以内 (25±3°C, 100w/m <sup>2</sup> , 300~700nm)	半減期1時間以内 (25±3°C, 100w/m <sup>2</sup> , 300~700nm)	
スペクトル	UV, IR, MS, <sup>1</sup> H-NMR		9農産第5089号 三共(株) 1999年 GLP	
	<sup>13</sup> C-NMR		12農産第8147号 三共アグロ(株) 2003年 GLP	
生物濃縮性	BCF (28日間) 2767 (0.05 μg/L), 2556 (0.2 μg/L)		三共アグロ(株) 2005年 GLP	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

①-1 UVスペクトル (L. A3)

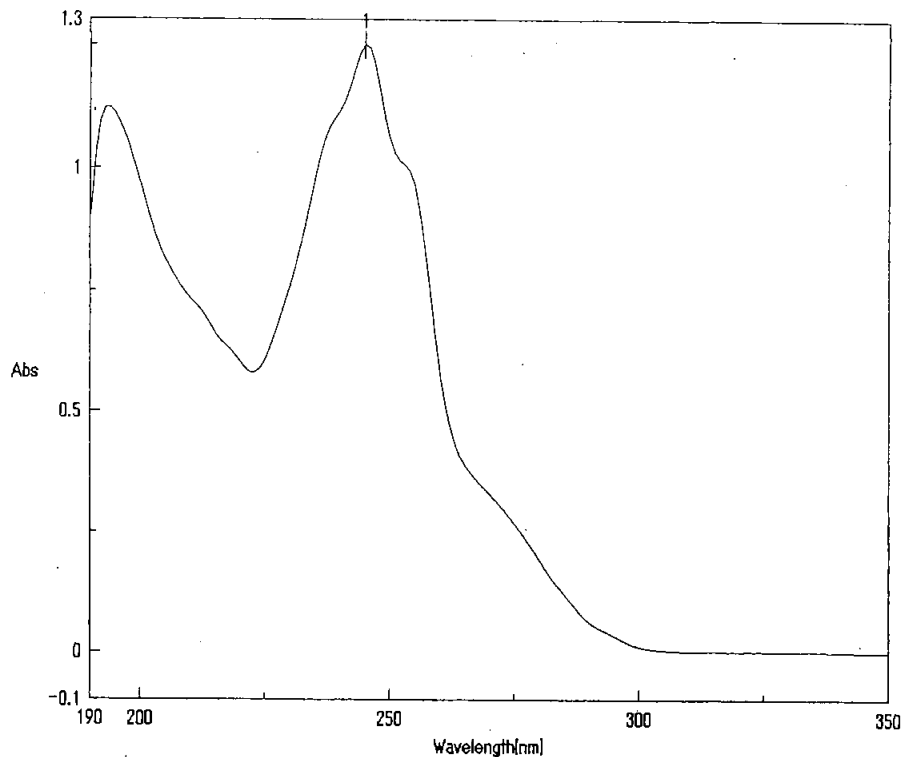
装置：紫外可視分光光度計 JASCO V-530 型 日本分光 (株)

溶媒：アセトニトリル

測定範囲：190～350 nm

最大吸収波長 245 nm

分子吸光係数  $\epsilon = 3.9422 \times 10^4$  (245nm)



日時	99/03/15 13:49
ファイル名	E-241.jws
機種名	V-530
シリアル番号	874180505
バンド幅	2.0 nm
レスポンス	Fast
測定範囲	350 - 190 nm
データ取込間隔	1nm
走査速度	1000nm/min
試料番号	18
繰返し回数	1
試料名	E-241
測定者	Yoshiko Tainaka
コメント	

1: 245.00, 1.2497

日付・実験者: 1999.3.15. 田中昌子 日付・試験責任者: 3/15/1999 [Signature]

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

①-2 UVスペクトル (L. A4)

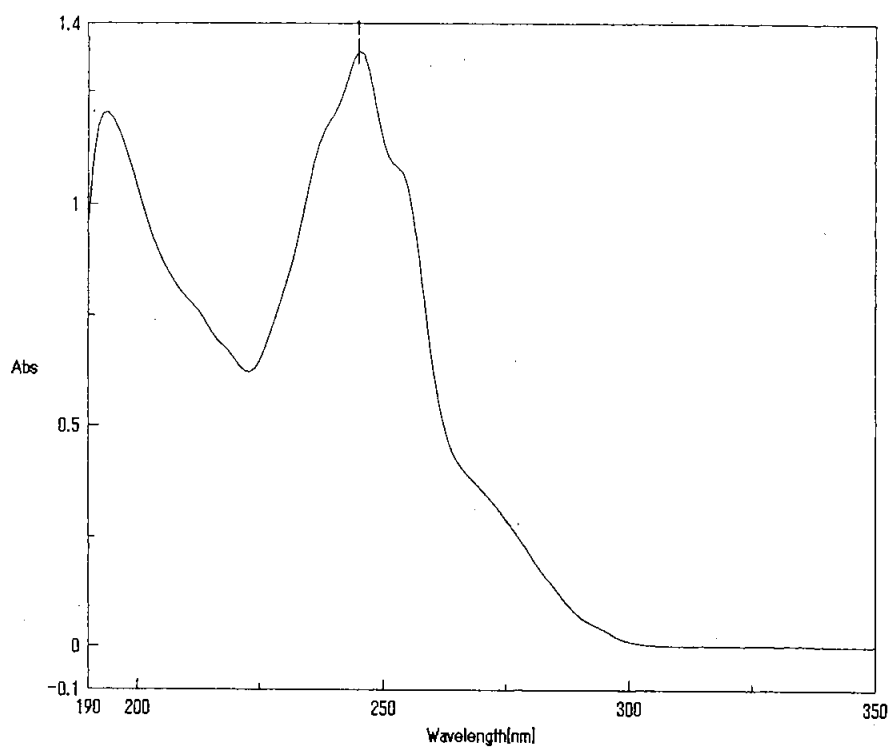
装置：紫外可視分光光度計 JASCO V-530 型 日本分光 (株)

溶媒：アセトニトリル

測定範囲：190~350 nm

最大吸収波長 245 nm

分子吸光係数  $\epsilon = 3.9624 \times 10^4$  (245nm)



日時	98/03/15 13:58
ファイル名	E-809.jwa
機種名	V-530
シリアル番号	874180505
バンド幅	2.0 nm
レスポンス	Fast
測定範囲	350 - 190 nm
データ取込間隔	1nm
走査速度	1000nm/min
試料番号	19
繰り返し回数	1
試料名	E-809
測定者	Yoshiko Tainaka
コメント	

1: 245.00, 1.3393

日付・実験者: 1999.3.15 田井中昌子

日付・試験責任者: 3/15/1999



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

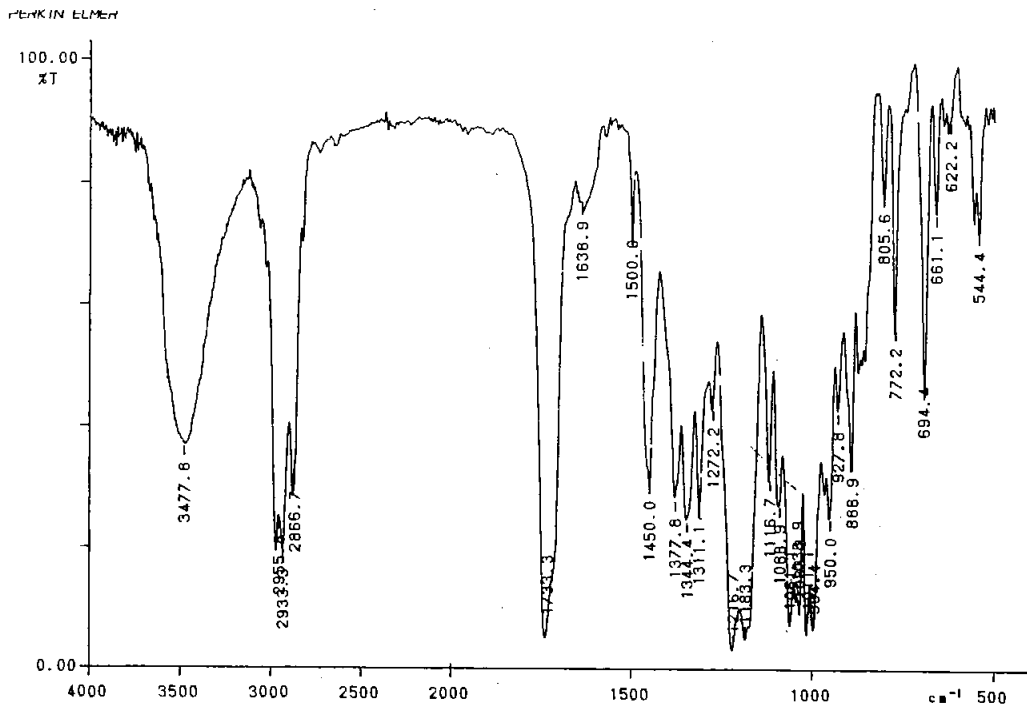
②-1 IRスペクトル (L. A3)

KBr 法

装置：フーリエ変換赤外分析装置 1600 型 FT-IR パーキンエルマー (株)

測定範囲：4000~500  $\text{cm}^{-1}$

測定温度：室温



99/03/15 14:23 SANKYO AGR. LAB.  
X: 32 scans, 4.0 $\text{cm}^{-1}$ , flat, abex  
E-241

3/15/1999  
Hidashi Omi

3/16/1999  
*[Signature]*

L. A3 スペクトルの帰属

$\nu_{\text{max}}$  ( $\text{cm}^{-1}$ ): 3478 (br. m, C-OH), 2956 (s, C-H), 2933 (s, C-H), 2867 (s, C-H), 1733 (s, C=O), 1450 (m), 1378 (m), 1344 (m), 1311 (m), 1217 (s), 1183 (s)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

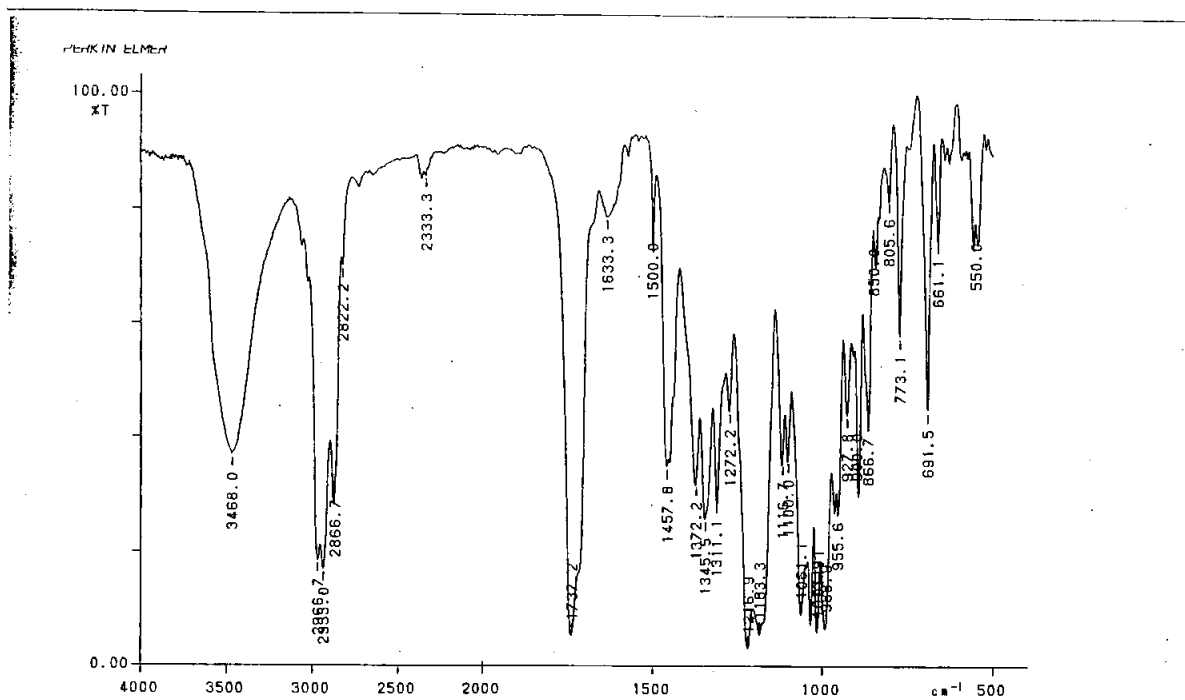
②-2 IRスペクトル (L. A4)

KBr 法

装置：フーリエ変換赤外分析装置 1600 型 FT-IR パーキンエルマー (株)

測定範囲：4000~500  $\text{cm}^{-1}$

測定温度：室温



99/03/15 14:54 SANKYO AGR. LAB.  
Y: 32 scans, 4.0 $\text{cm}^{-1}$ , flat, abex  
E-909

315749

Hidashi Omi  
3/16/1999  
*[Signature]*

L. A4 スペクトルの帰属

$\nu_{\text{max}}$  ( $\text{cm}^{-1}$ ): 3468 (br. m, C-OH), 2967 (s, C-H), 2933 (s, C-H), 2867 (s, C-H), 1737 (s, C=O), 1458 (m), 1372 (m), 1346 (m), 1311 (m), 1217 (s), 1183 (s)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

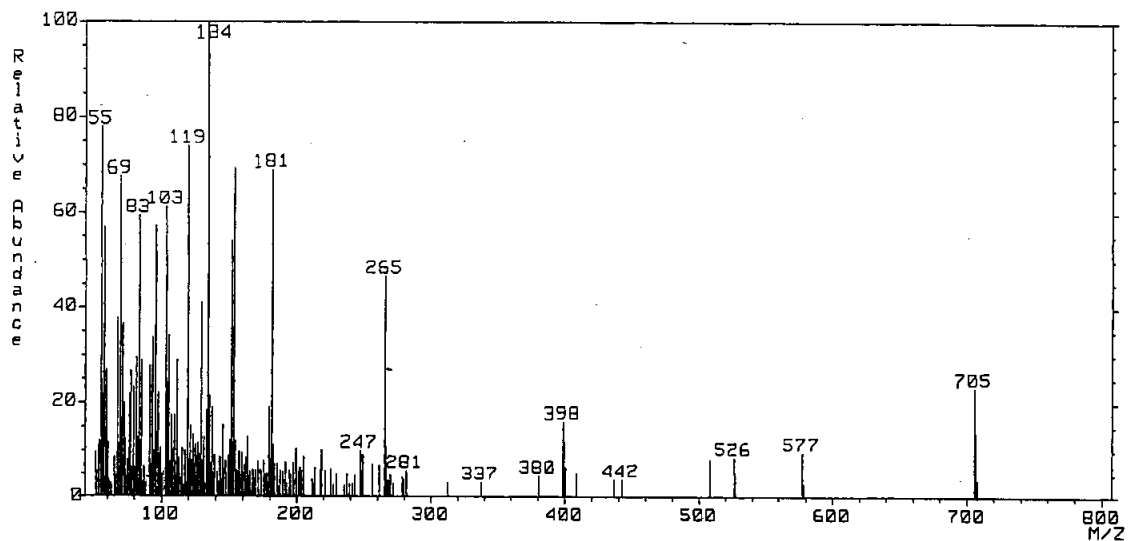
③-1 マススペクトル (L. A3)

装置：二重収束型質量分析計 JMS-AX500 日本電子 (株)

イオン化法：EI (電子衝撃イオン化) 法

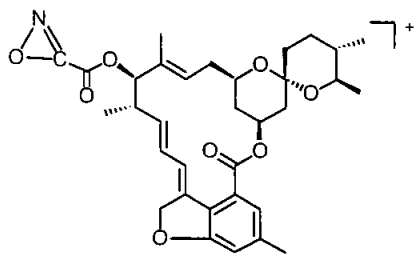
測定範囲：50~800

MASS SPECTRUM Data File: E24103 15-MAR-99 15:41  
 Sample: E241 DIRECT EI  
 RT: 3.42 EI (Pos.) GC 1.4c BP: m/z 134.0000 Int. 11.9689 Lv 0.00  
 Scan# (75)

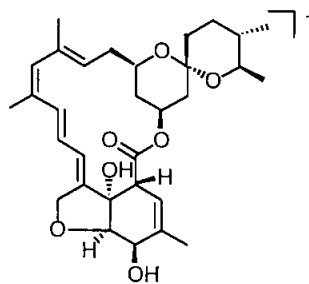


スペクトルの解析

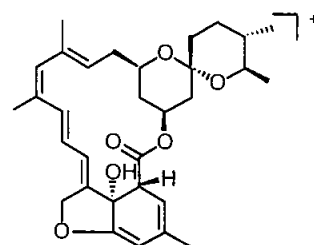
L. A3 m/z : 705 (M<sup>+</sup>), 577, 526, 508, 398, 265, 181



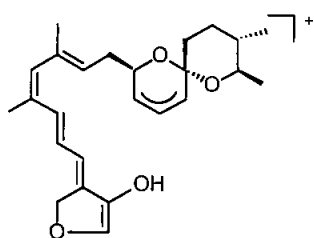
m/z=577



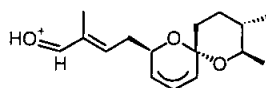
m/z = 526



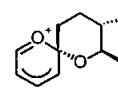
m/z = 508



m/z=398



m/z = 265



m/z = 181

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

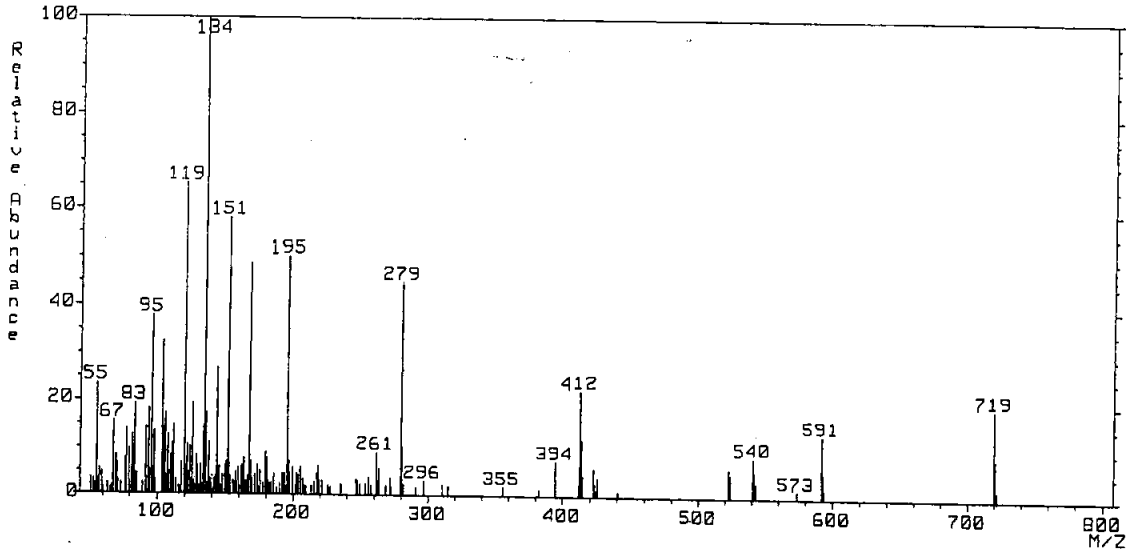
③-2 マススペクトル (L. A4)

装置：二重収束型質量分析計 JMS-AX500 日本電子 (株)

イオン化法：EI (電子衝撃イオン化) 法

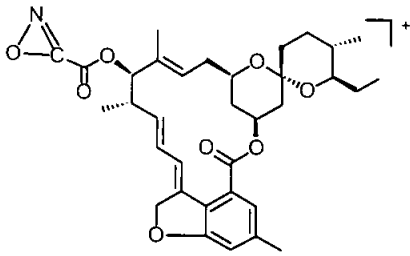
測定範囲：50~800

MASS SPECTRUM Data File: E90902 15-MAR-99 16:16  
 Sample: E909 DIRECT EI  
 RT: 3.427 EI (Pos.) GC 1.4c BP: m/z 134.0000 Int. 19.9416 Lv 0.00  
 Scan# (75)

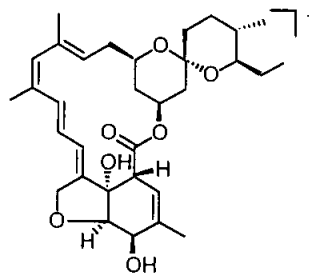


スペクトルの解析

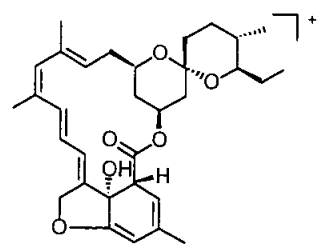
L. A4 m/z : 719 (M<sup>+</sup>), 591, 540, 522, 412, 279, 195



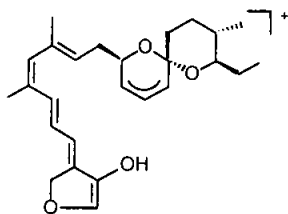
m/z=591



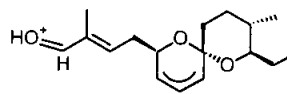
m/z = 540



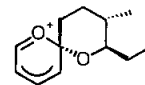
m/z = 522



m/z = 412



m/z = 279



m/z = 195

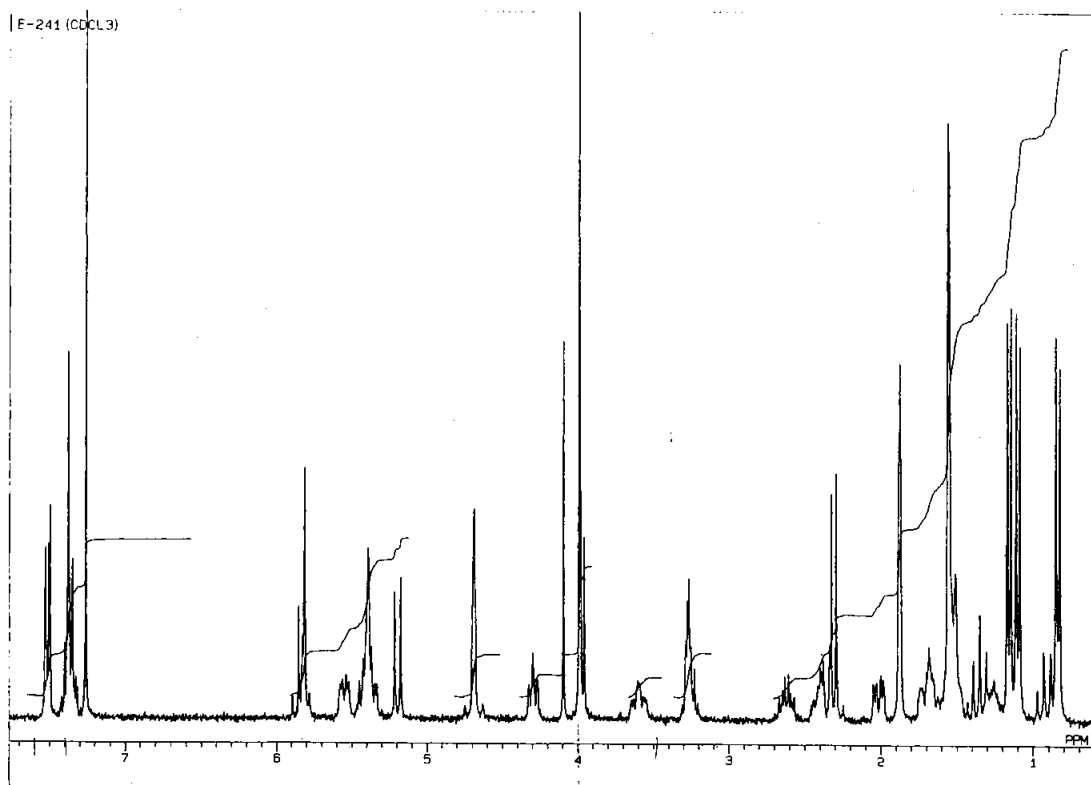
本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

④-1  $^1\text{H-NMR}$ スペクトル (L. A3)

装置：核磁気共鳴装置 GX-270 日本電子 (株)

溶媒：クロロホルム-D

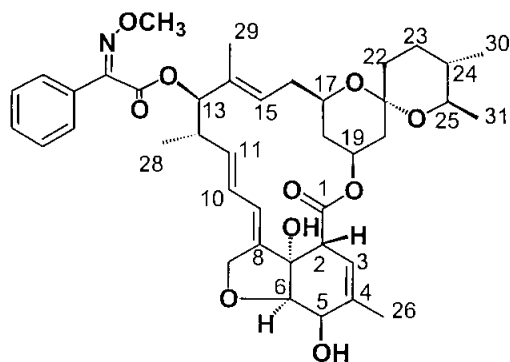
基準物質：トリメチルシラン



3/15/19 H. K. Kim  
3/15/1999 O. Kim

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

L. A3 :



L. A3 スペクトルの帰属 :

$^1\text{H-NMR } \delta$  ( $\text{CDCl}_3$ ) ppm : 7.49-7.56 (m, 2H, aromatic H), 7.31-7.42 (m, 3H, aromatic H), 5.78-5.90 (m, 2H, 9-H, 10-H), 5.56 (dd, 1H,  $J=5.2, 12.2\text{Hz}$ , 15-H), 5.32-5.49 (m, 3H, 3-H, 11-H, 19-H), 5.20 (d, 1H,  $J=11.0\text{Hz}$ , 13-H), 4.62-4.74 (m, 2H, 27-H<sub>2</sub>), 4.30 (t, 1H,  $J=6.4\text{Hz}$ , 5-H), 4.09 (s, 1H, 7-OH), 3.99 (s, 3H, =N-OCH<sub>3</sub>), 3.97 (d, 1H,  $J=6.4\text{Hz}$ , 6-H), 3.54-3.66 (m, 1H, 17-H), 3.21-3.32 (m, 2H, 2-H, 25-H), 2.56-2.71 (m, 1H, 16-H), 2.25-2.46 (m, 2H, 12-H, 16-H), 2.31 (d, 1H,  $J=6.4\text{Hz}$ , 5-OH), 2.01 (dd, 1H,  $J=5.8, 13.9\text{Hz}$ , 20-H), 1.88 (s, 3H, 26-H<sub>3</sub>), 1.17-1.78 (m, 7H, 18-H, 20-H, 22-H<sub>2</sub>, 23-H<sub>2</sub>, 24-H), 1.56 (s, 3H, 29-H<sub>3</sub>), 1.16 (d, 3H,  $J=6.4\text{Hz}$ , 31-H<sub>3</sub>), 1.10 (d, 3H,  $J=6.4\text{Hz}$ , 28-H<sub>3</sub>), 0.85-0.97 (m, 1H, 18-H), 0.84 (d, 3H,  $J=6.4\text{Hz}$ , 30-H<sub>3</sub>)

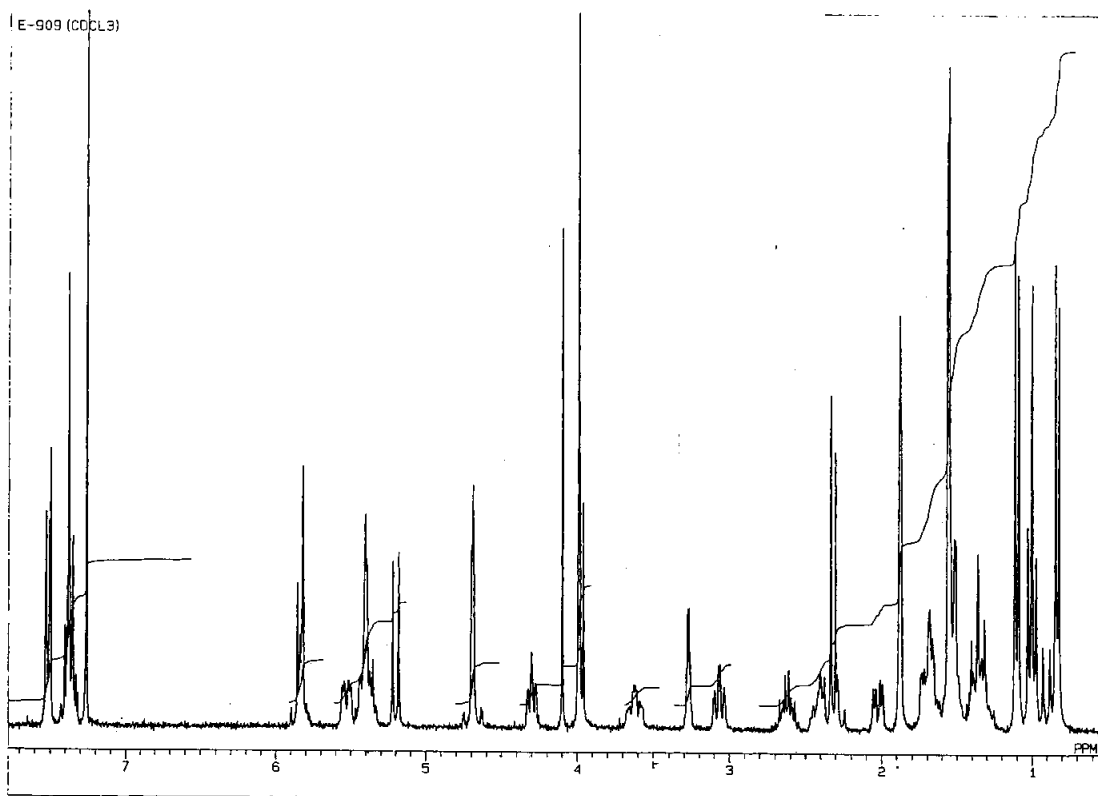
本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

④-2  $^1\text{H-NMR}$ スペクトル (L. A4)

装置：核磁気共鳴装置 GX-270 日本電子 (株)

溶媒：クロロホルム-D

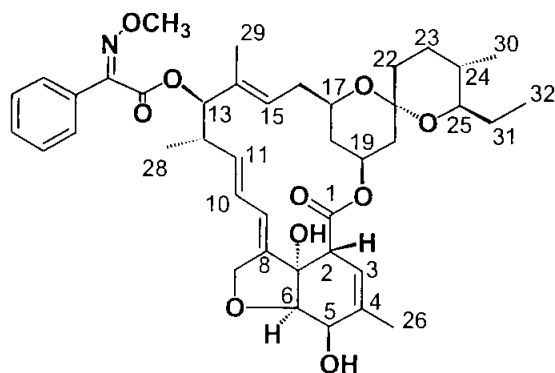
基準物質：トリメチルシラン



3/15/99 *[Signature]*  
3/15/99 *[Signature]*

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

L. A4 :



L. A4 スペクトルの帰属 :

$^1\text{H-NMR}$   $\delta$  ( $\text{CDCl}_3$ ) ppm : 7.49-7.56 (m, 2H, aromatic H), 7.31-7.43 (m, 3H, aromatic H), 5.77-5.90 (m, 2H, 9-H, 10-H), 5.55 (dd, 1H,  $J=6.4, 10.4\text{Hz}$ , 15-H), 5.32-5.48 (m, 3H, 3-H, 11-H, 19-H), 5.20 (d, 1H,  $J=10.5\text{Hz}$ , 13-H), 4.63-4.76 (m, 2H, 27-H<sub>2</sub>), 4.30 (t, 1H,  $J=6.3\text{Hz}$ , 5-H), 4.10 (s, 1H, 7-OH), 3.99 (s, 3H, =N-OCH<sub>3</sub>), 3.97 (d, 1H,  $J=6.3\text{Hz}$ , 6-H), 3.55-3.68 (m, 1H, 17-H), 3.26 (q, 1H,  $J=2.3\text{Hz}$ , 2-H), 3.07 (dt, 1H,  $J_d=2.7\text{Hz}$ ,  $J_t=9.0\text{Hz}$ , 25-H), 2.57-2.70 (m, 1H, 16-H), 2.23-2.48 (m, 2H, 12-H, 16-H), 2.32 (d, 1H,  $J=6.3\text{Hz}$ , 5-OH), 2.02 (dd, 1H,  $J=3.5, 12.2\text{Hz}$ , 20-H), 1.88 (s, 3H, 26-H<sub>3</sub>), 1.17-1.78 (m, 9H, 18-H, 20-H, 22-H<sub>2</sub>, 23-H<sub>2</sub>, 24-H, 31-H<sub>2</sub>), 1.56 (s, 3H, 29-H<sub>3</sub>), 1.10 (d, 3H,  $J=6.4\text{Hz}$ , 28-H<sub>3</sub>), 1.00 (t, 3H,  $J=7.6\text{Hz}$ , 32-H<sub>3</sub>), 0.85-0.97 (m, 1H, 18-H), 0.83 (d, 3H,  $J=6.4\text{Hz}$ , 30-H<sub>3</sub>)



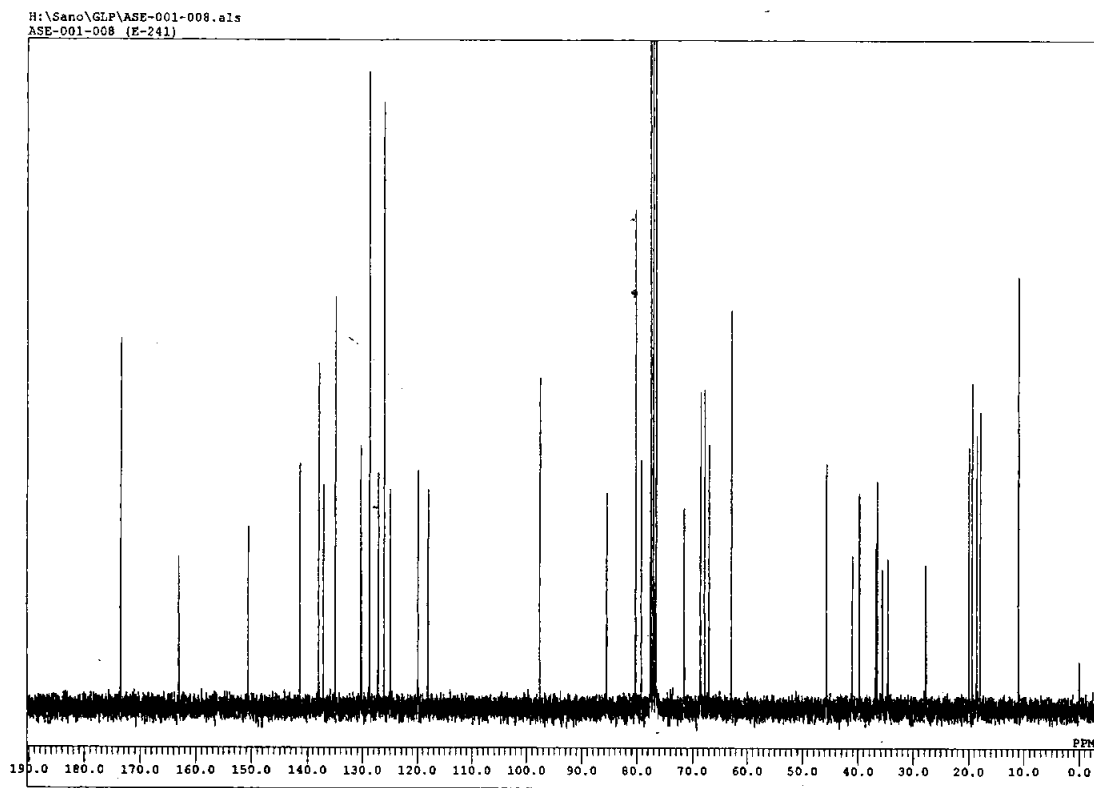
本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

⑤-1  $^{13}\text{C}$ -NMRスペクトル (L. A3)

装置：核磁気共鳴装置 GX-270 日本電子 (株)

溶媒：クロロホルム-D

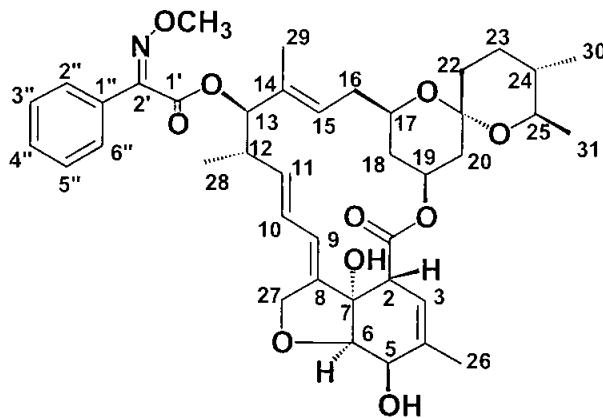
基準物質：トリメチルシラン



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

## スペクトルの帰属

L. A3 :



L. A3 スペクトルの帰属 :

$^{13}\text{C-NMR}$   $\delta$  ( $\text{CDCl}_3$ ) ppm : 173.52 (C1), 163.04 (C1'), 150.58 (C2'), 141.28 (C8),  
137.87 (C4), 137.05 (C11), 134.92 (C14), 130.27 (C1''), 130.17 (C4''), 128.69 (C2'', C6''),  
127.09 (C15), 126.02 (C3'', C5''), 124.89 (C10), 119.85 (C9), 118.00 (C3), 97.54 (C21),  
85.50 (C13), 80.22 (C7), 79.20 (C6), 71.45 (C25), 68.42 (C27, C19), 67.64 (C5), 66.89  
(C17), 62.75 (N-OCH<sub>3</sub>), 45.59 (C2), 41.00 (C20), 39.75 (C12), 36.74 (C18), 36.46 (C24),  
35.59 (C23), 34.56 (C16), 27.67 (C22), 19.93 (C26), 19.36 (C31), 18.55 (C28), 17.88  
(C30), 10.97 (C29)

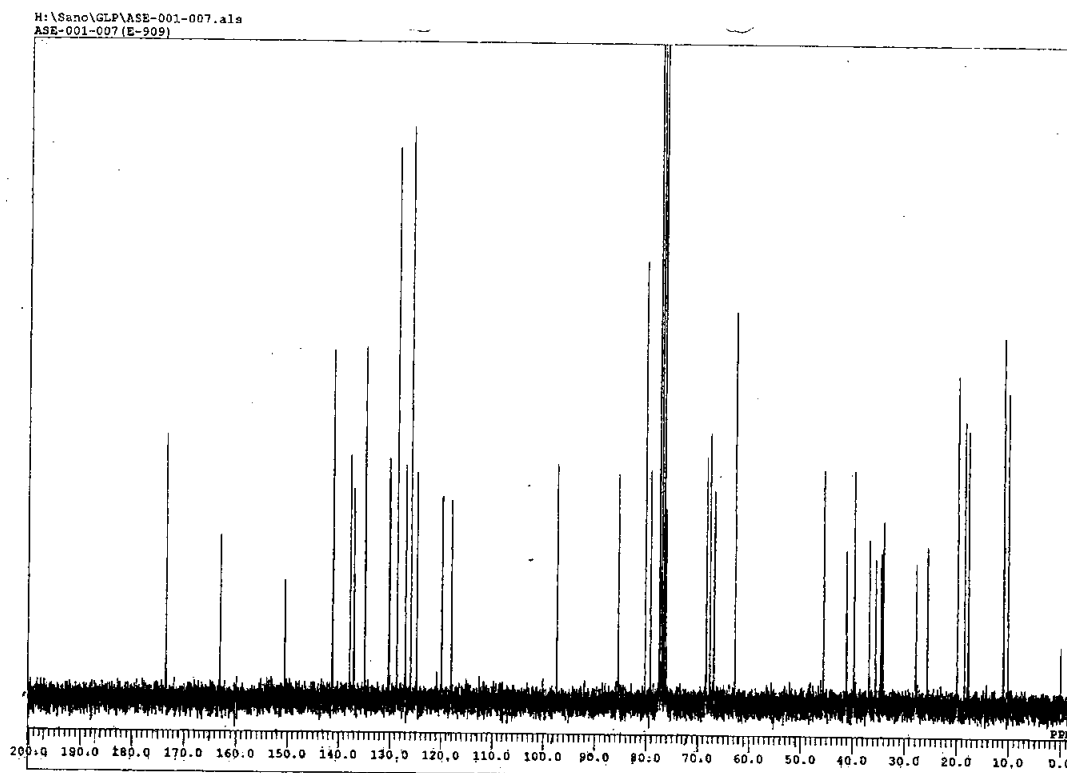
本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

⑤-2  $^{13}\text{C}$ -NMRスペクトル (L A4)

装置：核磁気共鳴装置 GX-270 日本電子 (株)

溶媒：クロロホルム-D

基準物質：トリメチルシラン



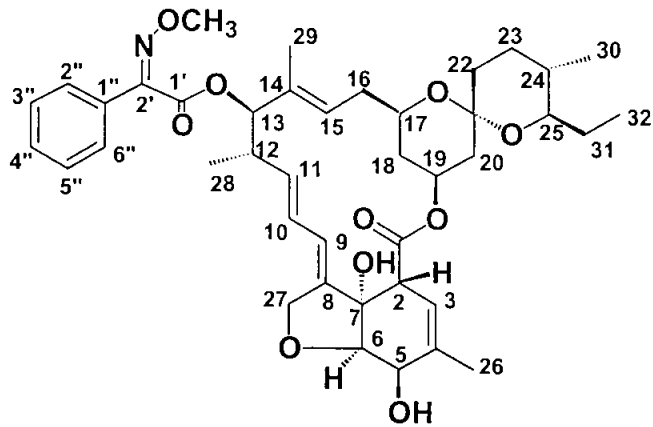
2007/05/20 HS  
analysis HS

4/A

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

## スペクトルの帰属

L. A4 :

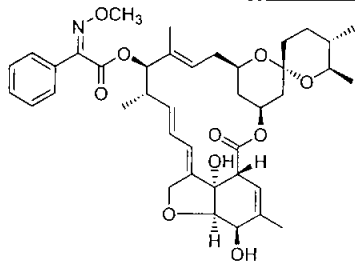
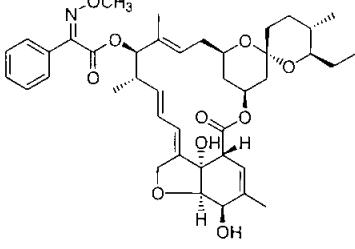


L. A4 スペクトルの帰属 :

$^{13}\text{C-NMR } \delta$  ( $\text{CDCl}_3$ ) ppm : 173.45 (C1), 163.07 (C1'), 150.58 (C2'), 141.23 (C8),  
137.86 (C4), 137.11 (C11), 134.93 (C14), 130.27 (C1''), 130.16 (C4''), 128.69 (C2'', C6''),  
127.04 (C15), 126.02 (C3'', C5''), 124.86 (C10), 119.90 (C9), 118.04 (C3), 97.38 (C21),  
85.48 (C13), 80.25 (C7), 79.21 (C6), 76.17 (C25), 68.44 (C27), 68.40 (C19), 67.64 (C5),  
66.84 (C17), 62.75 (N-OCH<sub>3</sub>), 45.61 (C2), 41.16 (C20), 39.71 (C12), 36.82 (C18), 35.56  
(C23), 34.56 (C16), 34.19 (C24), 27.83 (C22), 25.68 (C31), 19.95 (C26), 18.53 (C28),  
17.79 (C30), 10.99 (C29), 10.17 (C32)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

3. 原体の成分組成

区分	名称		構造式	分子式	分子量	含有量 (%)		
	一般名 (略称)	化学名				規格値	通常値	
有効成分	レピメクチン	L. A3	I		$C_{40}H_{51}NO_{10}$	705.83		
		L. A4	II		$C_{41}H_{53}NO_{10}$	719.86		
原体混在物								

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

区分	名称		構造式	分子式	分子量	含有量(%)	
	一般名(略称)	化学名				規格値	通常値
原体混在物							

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

区分	名称		構造式	分子式	分子量	含有量(%)	
	一般名(略称)	化学名				規格値	通常値
原体混在物							

I : (10*E*, 14*E*, 16*E*, 22*Z*)-(1*R*, 4*S*, 5'*S*, 6*R*, 6'*R*, 8*R*, 12*R*, 13*S*, 20*R*, 21*R*, 24*S*)-21, 24-ジヒト<sup>o</sup>ロキシ  
 12-[(2*Z*)-2-メキシミノ-2-フェニルアセトキシ]-5', 6', 11, 13, 22-ペンタメチル-3, 7, 19-トリオキサテトラシクロ  
 [15. 6. 1. 1<sup>4,8</sup>. 0<sup>20,24</sup>]ヘンタコサ-10, 14, 16, 22-テトラエン-6-スピロ-2'-テトラヒト<sup>o</sup>ロピラン-2-オン

II : (10*E*, 14*E*, 16*E*, 22*Z*)-(1*R*, 4*S*, 5'*S*, 6*R*, 6'*R*, 8*R*, 12*R*, 13*S*, 20*R*, 21*R*, 24*S*)-6'-エチル-21, 24-  
 ジヒト<sup>o</sup>ロキシ-12-[(2*Z*)-2-メキシミノ-2-フェニルアセトキシ]-5', 11, 13, 22-テトラメチル-3, 7, 19-トリオキサテトラシクロ  
 [15. 6. 1. 1<sup>4,8</sup>. 0<sup>20,24</sup>]ヘンタコサ-10, 14, 16, 22-テトラエン-6-スピロ-2'-テトラヒト<sup>o</sup>ロピラン-2-オン

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

## レピメクチン関連化合物命名の根拠

E-241 (L. A3) 及び E-909 (L. A4) の化学名は、次の通りである。

### ① IUPAC による化学名

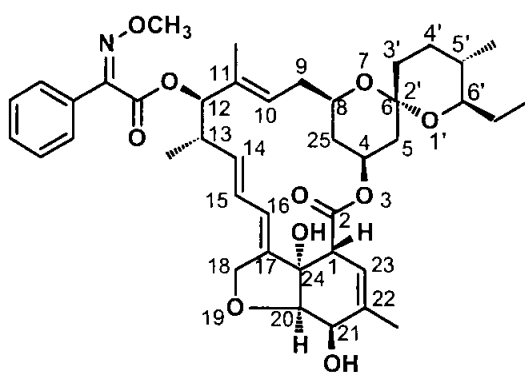
E-241 (L. A3)

(10*E*, 14*E*, 16*E*, 22*Z*)-(1*R*, 4*S*, 5'*S*, 6*R*, 6'*R*, 8*R*, 12*R*, 13*S*, 20*R*, 21*R*, 24*S*)-21, 24-ジヒドロキシ-12-  
[(2*Z*)-2-メキシミノ-2-フェニルアセトキシ]-5', 6', 11, 13, 22-ペンタメチル-3, 7, 19-トリオキサテトラシクロ  
[15. 6. 1. 1<sup>4,8</sup>. 0<sup>20,24</sup>]ヘンタコサ-10, 14, 16, 22-テトラエン-6-スピロ-2'-テトラヒドロピラン-2-オン

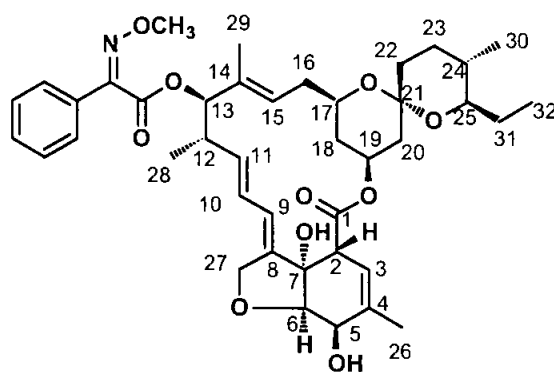
E-909 (L. A4)

(10*E*, 14*E*, 16*E*, 22*Z*)-(1*R*, 4*S*, 5'*S*, 6*R*, 6'*R*, 8*R*, 12*R*, 13*S*, 20*R*, 21*R*, 24*S*)-6'-エチル-21, 24-  
ジヒドロキシ-12-[(2*Z*)-2-メキシミノ-2-フェニルアセトキシ]-5', 11, 13, 22-テトラメチル-3, 7, 19-トリオキサテトラシクロ  
[15. 6. 1. 1<sup>4,8</sup>. 0<sup>20,24</sup>]ヘンタコサ-10, 14, 16, 22-テトラエン-6-スピロ-2'-テトラヒドロピラン-2-オン

レピメクチンのナンバリング (L. A4 の場合)



IUPAC によるナンバリング



Chemical Abstracts (CA) によるナンバリング

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

## ② 名称と略称

本資料における原体混在物、標識化合物、運命試験等における代謝分解物など関連化合物の名称は Chemical Abstract (CA) でのナンバリングに準じて決めた。その理由として、レピメクチンと類似の骨格を有するミルベメクチン (M. A3 と M. A4 の混合物) やアベルメクチン及びそれらの誘導体や代謝物が CA に基づいたナンバリングによって命名され、学術論文等で数多く報告されていることによる。

具体的には、CA に準じてマクロライド骨格部分をナンバリングし、それを基にして関連化合物を親化合物と比較し、変化した箇所を明示し、その後に基となる L. A3 もしくは L. A4 を付けて名称とした。また、名称を簡略化するため、変化とその箇所を数字と記号で表し、その後に基となる L. A3 もしくは L. A4 を付けたものを略称とした。

ミルベメクチン A3 (M. A3)、ミルベメクチン A4 (M. A4) 関連化合物も同様に CA に準じてマクロライド骨格をナンバリングし、変化した箇所を明示し、表記の際は A3 もしくは A4 を用いた。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

#### 4. 製剤の組成

##### ① 1.0%乳剤

レピメクチン原体： 1.0%

有機溶剤、界面活性剤等： 99.0%

##### ② 1.0%水和剤 [フロアブル]

レピメクチン原体： 1.0%

水、界面活性剤等： 99.0%

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

### III. 生物活性

#### 1. 活性の範囲

レピメクチンは野菜、果樹、茶、花卉を加害する鱗翅目、アザミウマ目、双翅目、半翅目、鞘翅目害虫等に対して高い殺虫活性を示し、殺虫スペクトラムは広い（表1）。

一方、ミツバチ、マルハナバチ、マメコバチ等の訪花昆虫に対する殺虫活性あるいは悪影響は、実用散布濃度では低い～認められない。

表 1

害虫名	目	処理 ステージ	処理法	半数致死濃度 <sup>注1)</sup> (LC <sub>50</sub> ) (ppm)
コナガ <i>Plutella xylostella</i>	鱗翅目	3 齢幼虫	キャベツ葉片 浸漬	0.029
モンシロチョウ <i>Pieris brassicae</i>	鱗翅目	3 齢幼虫	キャベツ葉片 浸漬	0.050
ハスモンヨウトウ <i>Spodoptera litura</i>	鱗翅目	3 齢幼虫	人工飼料浸漬	0.095
シロイチモジヨトウ <i>Spodoptera exigea</i>	鱗翅目	3 齢幼虫	キャベツ葉片 浸漬	0.093
オオタバコガ <i>Helicoverpa armigera</i>	鱗翅目	3 齢幼虫	人工飼料浸漬	0.023
ヘリオシスピレッセンス <i>Helicoverpa virescens</i>	鱗翅目	初齢幼虫	人工飼料浸漬	0.009
ハイマダラノメイガ <i>Hellula undalis</i>	鱗翅目	3 齢幼虫	キャベツ葉片 浸漬	<1.25 <sup>注2)</sup>
チャノココクモンハマキ <i>Adoxophyes honmai</i>	鱗翅目	4 齢幼虫	人工飼料浸漬	0.18
ミダレカクモンハマキ <i>Archips fuscocupreanus</i>	鱗翅目	3 齢幼虫	人工飼料浸漬	0.10
リンゴココクモンハマキ <i>Adoxophyes arana</i>	鱗翅目	4 齢幼虫	人工飼料浸漬	0.54
アゲハ <i>Papilio xuthus</i>	鱗翅目	4 齢幼虫	ミカン葉浸漬	0.66
ミカンキイロアザミウマ <i>Frankliniella occidentalis</i>	アザミ ウマ目	孵化幼虫	インゲン葉散布	1.30
マメハモグリバエ <i>Liriomyza trifolii</i>	双翅目	成虫	インゲン葉散布	<2.50 <sup>注3)</sup>
マメハモグリバエ <i>Liriomyza trifolii</i>	双翅目	卵～ 孵化幼虫	インゲン葉散布	<1.25 <sup>注4)</sup>

注 1) 苦悶虫も含む

注 2) 1.25ppm で 100%の死亡率

注 3) 2.50ppm で 98.0%の死亡率

注 4) 1.25ppm で 100%の死亡率

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

表1の続き

害虫名	目	処理 ステージ	処理法	半数致死濃度 <sup>注1)</sup> (LC <sub>50</sub> ) (ppm)
モモアカアブラムシ <i>Myzus persicae</i>	半翅目	無翅虫	小松菜葉散布	0.78
ワタアブラムシ <i>Aphis gossypii</i>	半翅目	無翅虫	キュウリ葉散布	0.97
シルバーリーフコナジラミ <i>Bemisia argentifolii</i>	半翅目	孵化幼虫	寄生キャベツ葉 浸漬	2.57
オンシツコナジラミ <i>Trialeurodes vaporariorum</i>	半翅目	孵化幼虫	キュウリ葉散布	1.17
ニジュウヤホシテントウ <i>Epilachna vigintioctopunctata</i>	鞘翅目	2 齢幼虫	トマト葉片浸漬	0.13
キスジノミハムシ <i>Phyllotreta striolata</i>	鞘翅目	成虫	ダイコン葉浸漬	1.03
コロラドハムシ <i>Leptinotarsa decemlineata</i>	鞘翅目	成虫	馬鈴薯葉片浸漬	<0.30 <sup>注5)</sup>
コロラドハムシ <i>Leptinotarsa decemlineata</i>	鞘翅目	3 齢幼虫	馬鈴薯葉片浸漬	0.028

注1) 苦悶虫も含む

注5) 0.30ppmで100%の死亡率

## 2. 作用機構

レピメクチンを処理された害虫は、処理後数時間で、外部からの刺激に対して正常な反応を示さなくなり、その後死に至る。

本症状は、害虫の神経系のうち、興奮性神経伝達物質であるアセチルコリンの分解酵素アセチルコリンエステラーゼ阻害を作用機構とする有機リン剤・カーバメート剤、神経軸索のナトリウムチャンネルに作用して害虫を興奮、その後神経の伝達を遮断するピレスロイド剤、あるいは神経節のアセチルコリン受容体に直接作用して害虫を興奮させるネオニコチノイド剤とは大きく異なる。勿論、昆虫成育制御剤（脱皮阻害剤、脱皮促進剤等）、Bt剤とも症状は大きく異なる。レピメクチンの殺虫活性はこれらの剤と異なり、抑制性グルタミン酸作用性の塩素イオンチャンネルへの作用によることが明らかになっている。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

### 3. 作用特性と防除上の利点

室内試験の結果から、本剤は対象害虫に対して接触作用と食毒作用との両作用を有することを確認した。露地（圃場）、施設栽培条件での試験成績から、本剤は対象害虫に対して優れた速効性と適度の残効性を有することが明らかとなった。

2の項で述べた様に、本剤は極めて速やかに殺虫効果を発揮し、食害を抑制する。また、既存薬剤に抵抗性を示す害虫にも優れた効果を発揮する。

作物栽培現場では複数種の害虫が、同時に発生することは多い。2の項で述べた様に、殺虫スペクトラムの広い本剤は、複数の害虫の同時防除、特に鱗翅目害虫とその他害虫との同時防除に有効である特長を持ち、散布回数・労力の低減につながると期待される。

異なる系統の薬剤を組みあわせることが多いローテーション防除の中の基幹剤として位置付けることが出来る。

本有効成分は環境中で分解が速く、葉菜類では収穫3日前、果菜類では収穫前日まで使用可能である。

適用及び使用上の注意の項（IV）に示す様に、本剤は投下薬量が少ない特長も有する。その点から、環境負荷がより少ない剤と考えられる。

また、これまでに乳剤（SI-0009 乳剤）あるいはフロアブル（SI-0205 フロアブル）で試験された野菜、果樹、茶で、薬害の発生した事例はない。薬害面でも問題のない安全な有効成分・製剤である。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

#### IV. 適用及び使用上の注意

##### 1. 適用病害虫の範囲及び使用方法

##### 1) 既登録の適用

##### ① 1.0%乳剤 [アニキ乳剤]

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	比 <sup>レ</sup> 効 <sup>チ</sup> ン <sup>を</sup> 含む農薬の 総使用回数
みかん	シロハモグリガ	1000～ 2000 倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	4 回 以内	散布	4 回以内
	チャノキイロアザミヤ アゲハ類	1000～ 4000 倍					
	ミカンサビダニ	2000～ 4000 倍					
	チャノコリダニ	4000 倍					
かんきつ (みかんを除く)	シロハモグリガ	1000～ 2000 倍	200～700 L/10a	収穫 3 日 前まで	4 回 以内	散布	4 回以内
	チャノキイロアザミヤ アゲハ類	1000～ 4000 倍					
	ミカンサビダニ	2000～ 4000 倍					
	チャノコリダニ	4000 倍					
未成熟 とうもろこし	オオタバコガ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
だいず	ハスモンヨトウ	2000～ 3000 倍					
えだまめ							
かんしょ	ナカジロシタバ	2000 倍					
さといも	ハスモンヨトウ						
いちご	オオタバコガ	1000～ 2000 倍					
	オオタバコガ ハスモンヨトウ ハモグリバエ類 トマトサビダニ	2000 倍					
トマト ミニトマト	コナジラミ類 シロハモグリガ	1000～ 2000 倍					
	コナジラミ類	2000 倍					
ピーマン	ハスモンヨトウ オオタバコガ チャノコリダニ						

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	ビ <sup>®</sup> メチン <sup>®</sup> を 含む農薬の 総使用回数
なす	ハスモンヨトウ コナジラミ類	1000～ 2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
	オオタバコガ ハモグリバエ類 チャホリダニ	2000 倍					
きゅうり	コナジラミ類	1000 倍					
	ハスモンヨトウ	2000 倍					
メロン	ハモグリバエ類			4 回 以内	4 回以内		
ほうれんそう	ハスモンヨトウ	1000～ 2000 倍		収穫 3 日 前まで	3 回 以内		3 回以内
キャベツ	コナガ アオムシ ハスモンヨトウ ハマダラメガ ウワバ類 オオタバコガ						
	キジナムシ						
	コナガ アオムシ ハスモンヨトウ ハマダラメガ オオタバコガ カブラハバチ	1000～ 2000 倍					
はくさい	キジナムシ	1000 倍					
ブロッコリー	コナガ ハスモンヨトウ アオムシ	2000 倍	収穫前日 まで				
茎ブロッコリー	ハスモンヨトウ						
カリフラワー	コナガ ハスモンヨトウ	1000～ 2000 倍	収穫前日 まで				
非結球あぶらな 科葉菜類	コナガ ハスモンヨトウ キジナムシ ハモグリバエ類						



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	比 <sup>レ</sup> 効 <sup>チ</sup> ン <sup>を</sup> 含む農薬の 総使用回数
レタス	オオタバコガ ハスモンヨトウ	1000～ 2000 倍	100～300 L/10a	収穫 3 日 前まで	3 回 以内	散布	3 回以内
非結球レタス				収穫前日 まで			
ねぎ	シイタケヨウ	1000 倍		収穫 3 日前 まで			
	ネギアザミウマ ハモグリバエ類						
だいこん	コナガ アオムシ ハマダラメガ カブラハバチ	1000～ 2000 倍		収穫前日 まで			
かぶ	コナガ	1000 倍					
茶	チャノコカマキ	1000～ 2000 倍	200～400 L/10a	摘採 7 日 前まで	2 回 以内	2 回以内	
きく	マメハゲバエ	1000 倍	100～300 L/10a	発生初期	6 回 以内		6 回以内
	オオタバコガ ハスモンヨトウ	1000～ 2000 倍					
カーネーション	オオタバコガ	2000 倍					
りんどう	リンドウハカキ						

② 1.0%水和剤 [アニキフロアブル]

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	比 <sup>レ</sup> 効 <sup>チ</sup> ン <sup>を</sup> 含む農薬の 総使用回数
りんご	ハマキムシ類	2000～ 4000 倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
なし		ニセシジミ					
もも	ハマキムシ類	2000～ 4000 倍					
おうとう		2000～ 3000 倍					
ぶどう	チャノコカマキ	1000～ 2000 倍					

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

2) 登録申請中の適用

1.0%乳剤 [アニキ乳剤]

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	比 <sup>レ</sup> 効 <sup>チ</sup> ン <sup>を</sup> 含む農薬の 総使用回数			
すいか	オオタバコガ	1000 倍	100~300 L/10a	収穫前日 まで	3 回 以内	散布	3 回以内			
たまねぎ	ハスモンヨトウ	2000 倍								
豆類(未成熟、た だし、えだまめ、 さやえんどうを 除く)										
さやえんどう								ハモグリバエ類	1000 倍	
アスパラガス	コナジラミ類	2000 倍						収穫 3 日前 まで		
食用ぎく	オオタバコガ									
きく(葉)	ハスモンヨトウ									
とうがらし類	コナジラミ類	1000~ 2000 倍						収穫前日 まで		
	ハスモンヨトウ オオタバコガ チャノコリダニ	2000 倍								
セルリー	ハスモンヨトウ	1000~ 2000 倍								
しそ科葉菜類										
食用金魚草 食用なでしこ 食用プリムラ 食用カーネーション 食用エキザカム 食用せんにちこう 食用トレニア 食用パンジー	ハスモンヨトウ	2000 倍								
メロン	コナジラミ類			4 回 以内					4 回以内	
ねぎ	ネギコガ	1000~ 2000 倍		収穫 3 日前 まで					3 回 以内	3 回以内
しそ	シソサビダニ	2000 倍								
ストック	コナガ	1000~ 2000 倍	発生初期	6 回 以内	6 回以内					

※平成 26 年 2 月 25 日付、平成 27 年 8 月 6 日付及び平成 28 年 3 月 23 日付適用拡大申請中。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

## 2. 使用上の注意事項

### 1) 1.0%乳剤

- ① 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- ② ミツバチ、マルハナバチに影響を与える場合があるので、ミツバチ等の巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
- ③ 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせ調節すること。
- ④ 本剤は自動車や壁などの塗装面に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないように注意すること。
- ⑤ 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- ⑥ 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

### 2) 1.0%フロアブル剤

- ① 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- ② ミツバチ、マルハナバチに影響を与える場合があるので、ミツバチ等の巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
- ③ ぶどうに使用する場合、幼果期の散布では果粉溶脱を生じる場合があるので注意すること。
- ④ 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせ調節すること。
- ⑤ 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 3. 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

### 1) 1.0%乳剤、1.0%フロアブル剤

- ① 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- ② 使用残りの薬液が生じないよう調製を行い、使い切ること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

## V. 残留性

### 1. 作物残留

#### 1) 分析法の原理と操作概要

##### ・レピメクチン①

アセトン又はアセトニトリルで抽出後、カラムクロマトグラフィーで精製し、蛍光誘導化した。生成した誘導化物を HPLC (蛍光検出器) で定量した。もしくはアセトニトリルで抽出後、カラムクロマトグラフィーで精製し、LC/MS/MS で定量した。

#### 2) 分析対象の化合物

名称	化学名	分子式	分子量	親化合物への換算係数
レピメクチン (親化合物) ①	(10 <i>E</i> , 14 <i>E</i> , 16 <i>E</i> , 22 <i>Z</i> )-(1 <i>R</i> , 4 <i>S</i> , 5' <i>S</i> , 6 <i>R</i> , 6' <i>R</i> , 8 <i>R</i> , 12 <i>R</i> , 13 <i>S</i> , 20 <i>R</i> , 21 <i>R</i> , 24 <i>S</i> )-21, 24-ジヒドロキシ-12-[(2 <i>Z</i> )-2-メトキシミノ-2-フェニルアセトキシ]-5', 6', 11, 13, 22-ペンタメチル-3, 7, 19-トリオキサテトラシクロ[15. 6. 1. 1 <sup>4,8</sup> . 0 <sup>20,24</sup> ]ヘンタコサ-10, 14, 16, 22-テトラエン-6-スビロ-2'-テトラヒドロピラン-2-オン	C <sub>40</sub> H <sub>51</sub> NO <sub>10</sub>	705. 83	-
	(10 <i>E</i> , 14 <i>E</i> , 16 <i>E</i> , 22 <i>Z</i> )-(1 <i>R</i> , 4 <i>S</i> , 5' <i>S</i> , 6 <i>R</i> , 6' <i>R</i> , 8 <i>R</i> , 12 <i>R</i> , 13 <i>S</i> , 20 <i>R</i> , 21 <i>R</i> , 24 <i>S</i> )-6'-エチル-21, 24-ジヒドロキシ-12-[(2 <i>Z</i> )-2-メトキシミノ-2-フェニルアセトキシ]-5', 11, 13, 22-テトラメチル-3, 7, 19-トリオキサテトラシクロ[15. 6. 1. 1 <sup>4,8</sup> . 0 <sup>20,24</sup> ]ヘンタコサ-10, 14, 16, 22-テトラエン-6-スビロ-2'-テトラヒドロピラン-2-オン	C <sub>41</sub> H <sub>53</sub> NO <sub>10</sub>	719. 86	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学グループ株式会社にある。

3) 残留試験結果

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤 型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調 製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)											
					公 的 分 析 機 関						社 内 分 析 機 関					
					比*メチル[①]											
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
未成熟 とうもろこし (露地) (種子) 平成 24 年度 (GLP)	乳剤 (1%) 1000 倍 福井 190L/10a 長野 200L/10a 散布	福井植防	0	0	<0.01	<0.01										
			3	1	<0.01	<0.01										
			3	3	<0.01	<0.01										
			3	7	<0.01	<0.01										
		長野植防 松代	0	0	<0.01	<0.01										
			3	1	<0.01	<0.01										
			3	3	<0.01	<0.01										
			3	7	<0.01	<0.01										
だいず (露地) (乾燥子実) 平成 20 年度	乳剤 (1%) 2000 倍 新潟 200L/10a 広島 150L/10a 散布	新潟植防	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	1	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	3	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	7	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
		広島植防	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	1	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	3	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	7	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
さといも (露地) (塊茎) 平成 23 年度 (GLP)	乳剤 (1%) 2000 倍 茨城 194L/10a 鹿児島 182L/10a 散布	日植防茨城	0	—	<0.01	<0.01										
			3	1	<0.01	<0.01										
			3	3	<0.01	<0.01										
			3	7	<0.01	<0.01										
		鹿児島 農環協	0	—	<0.01	<0.01										
			3	1	<0.01	<0.01										
			3	3	<0.01	<0.01										
			3	7	<0.01	<0.01										
かんしょ (露地) (塊根) 平成 19 年度	乳剤 (1%) 2000 倍 200L/10a 散布	宮崎総農試	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	1	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	3	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	7	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
		鹿児島 農環協	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	1	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	3	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	7	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学 Agro 株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調 製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)												
					公 的 分 析 機 関					社 内 分 析 機 関							
					比 較 値 [①]		比 較 値 [①]		比 較 値 [①]		比 較 値 [①]		比 較 値 [①]		比 較 値 [①]		
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	
					(財)日本食品分析センター					三共 Agro (株) 農業科学研究所							
だいこん (露地) (根部) 平成 15 年度	乳剤 (1%) 1000 倍 200L/10a 散布	岐阜植防	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001					
			3	3	<0.001	<0.001					0.002	0.002					
			3	7	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001					
			3	14	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001					
		日植防 宮崎	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001					
			3	3	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001					
			3	7	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001					
			3	14	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001					
だいこん (露地) (葉部) 平成 15 年度	乳剤 (1%) 1000 倍 200L/10a 散布	岐阜植防	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001					
			3	3	0.050	0.049					0.055	0.051					
			3	7	0.022	0.021					0.032	0.029					
			3	14	0.008	0.007					0.007	0.006					
		日植防 宮崎	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001					
			3	3	0.022	0.021					0.031	0.030					
			3	7	0.015	0.015					0.028	0.026					
			3	14	0.012	0.011					0.011	0.011					

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学agro株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)												
					公的分析機関						社内分析機関						
					比 <sup>レ</sup> メチル〔①〕		比 <sup>レ</sup> メチル〔①〕		比 <sup>レ</sup> メチル〔①〕		比 <sup>レ</sup> メチル〔①〕		比 <sup>レ</sup> メチル〔①〕		比 <sup>レ</sup> メチル〔①〕		
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	
					(財)日本食品分析センター						(株)化学分析コンサルタン						
かぶ (施設) (根部) 平成22年度	乳剤 (1%) 1000倍 福島 150L/10a 長野 200L/10a 散布	福島植防 郡山	0	—	<0.01	<0.01					<0.01	<0.01					
			3	1	<0.01	<0.01					<0.01	<0.01					
			3	3	<0.01	<0.01					<0.01	<0.01					
			3	7	<0.01	<0.01					<0.01	<0.01					
		長野植防 松代	0	—	<0.01	<0.01					<0.01	<0.01					
			3	1	<0.01	<0.01					<0.01	<0.01					
			3	3	<0.01	<0.01					<0.01	<0.01					
			3	7	<0.01	<0.01					<0.01	<0.01					
かぶ (施設) (葉部) 平成22年度	乳剤 (1%) 1000倍 福島 150L/10a 長野 200L/10a 散布	福島植防 郡山	0	—	<0.01	<0.01					<0.01	<0.01					
			3	1	0.11	0.10					0.12	0.12					
			3	3	0.10	0.10					0.09	0.08					
			3	7	0.03	0.03					0.06	0.06					
		長野植防 松代	0	—	<0.01	<0.01					<0.01	<0.01					
			3	1	0.16	0.16					0.18	0.18					
			3	3	0.05	0.05					0.11	0.10					
			3	7	0.03	0.03					0.03	0.03					
					(財)日本食品分析センター						三共agro(株)農業科学研究所						
はくさい (露地) (茎葉) 平成14年度	乳剤 (1%) 1000倍 日植防 200L/10a 宮崎 241.9L/10a 散布	日植防研	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001					
			3	3	0.004	0.004					0.008	0.007					
			3	7	0.002	0.002					0.003	0.003					
			3	14	<0.001	<0.001					0.003	0.002					
		日植防 宮崎	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001					
			3	3	0.004	0.004					0.012	0.010					
			3	7	0.001	0.001					0.001	0.001					
			3	14	0.002	0.002					<0.001	<0.001					
キャベツ (露地) (葉球) 平成14年度	乳剤 (1%) 1000倍 日植防 200L/10a 群馬 150L/10a 散布	日植防研	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001					
			3	3	0.004	0.004					0.003	0.003					
			3	7	0.003	0.002					0.004	0.003					
			3	14	0.003	0.003					0.001	0.001					
		群馬植防	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001					
			3	3	0.003	0.002					0.011	0.010					
			3	7	0.002	0.002					0.003	0.002					
			3	14	<0.001	<0.001					0.002	0.002					

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学agro株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)											
					公的分析機関					社内分析機関						
					ビ・メチン〔①〕		ビ・メチン〔①〕		ビ・メチン〔①〕		ビ・メチン〔①〕		ビ・メチン〔①〕		ビ・メチン〔①〕	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
					(財) 日本食品分析センター					三共agro(株) 農業科学研究所						
こまつな (非結球あぶらな 科葉菜類) (施設) (茎葉) 平成19年度	乳剤 (1%) 1000倍 200L/10a 散布	福井植防	0	—	<0.002	<0.002					<0.005	<0.005				
			3	1	0.119	0.116					0.247	0.242				
			3	3	0.051	0.050					0.085	0.082				
			3	7	0.015	0.015					0.037	0.033				
		兵庫植防	0	—	<0.002	<0.002					<0.005	<0.005				
			3	1	0.320	0.315					0.421	0.420				
			3	3	0.195	0.192					0.276	0.271				
			3	7	0.078	0.076					0.120	0.116				
					(株) 化学分析コンサルタント											
みずな (非結球あぶらな 科葉菜類) (露地) (茎葉) 平成19年度	乳剤 (1%) 1000倍 200L/10a 散布	岐阜植防	0	—	—	—					<0.002	<0.002				
			3	1	—	—					0.072	0.071				
			3	3	—	—					0.038	0.038				
			3	7	—	—					0.037	0.036				
		滋賀植防	0	—	—	—					<0.002	<0.002				
			3	1	—	—					0.017	0.017				
			3	3	—	—					0.016	0.016				
			3	7	—	—					0.013	0.013				
					(財) 日本食品分析センター					三共agro(株) 農業科学研究所						
カリフラワー (露地) (花蕾) 平成20年度	乳剤 (1%) 1000倍 300L/10a 散布	日植防研	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	1	0.032	0.032					0.023	0.022				
			3	3	0.011	0.011					0.014	0.012				
			3	7	0.008	0.008					0.005	0.004				
カリフラワー (露地) (花蕾) 平成21年度	乳剤 (1%) 1000倍 282L/10a 散布	徳島植防	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	1	0.017	0.016					0.019	0.018				
			3	3	0.006	0.006					0.010	0.009				
			3	7	0.004	0.004					0.005	0.004				

- : 試料無



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学グループ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)											
					公的分析機関					社内分析機関						
					ビ・メチン〔①〕		ビ・メチン〔①〕		ビ・メチン〔①〕		ビ・メチン〔①〕		ビ・メチン〔①〕		ビ・メチン〔①〕	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
					(財) 日本食品分析センター					三共アグロ(株) 農業科学研究所						
ブロッコリー (露地) (花蕾) 平成 16 年度	乳剤 (1%) 1000 倍 長野 300L/10a 宮崎 227.3L/10a 散布	長野植防 南信	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	3	0.004	0.004					0.006	0.006				
			3	7	0.003	0.003					0.002	0.002				
			3	14	<0.001	<0.001					0.001	0.001				
		日植防 宮崎	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	3	0.006	0.006					0.013	0.012				
			3	7	0.006	0.006					0.005	0.004				
			3	14	0.003	0.002					0.003	0.003				
					(一財) 残留農薬研究所											
茎ブロッコリー (露地) (花蕾、花茎) 平成 25 年度	乳剤 (1%) 2000 倍 福井 267L/10a 奈良 178L/10a 散布	福井植防	0	—	<0.01	<0.01										
			3	3	<0.01	<0.01										
			3	7	<0.01	<0.01										
			3	14	<0.01	<0.01										
		奈良植防	0	—	<0.01	<0.01										
			3	3	<0.01	<0.01										
			3	7	<0.01	<0.01										
			3	14	<0.01	<0.01										
					(株) 化学分析コンサルタント											
のざわな (非結球あぶらな 科葉菜類) (露地) (茎葉) 平成 19 年度	乳剤 (1%) 1000 倍 200L/10a 散布	日植防 山梨	0	—	-	-					<0.002	<0.002				
			3	1	-	-					0.023	0.022				
			3	3	-	-					0.014	0.014				
			3	7	-	-					0.008	0.008				
		徳島植防	0	—	-	-					<0.002	<0.002				
			3	1	-	-					0.039	0.038				
			3	3	-	-					0.017	0.016				
			3	7	-	-					0.011	0.010				
					(財) 日本食品分析センター					三共アグロ(株) 農業科学研究所						
結球レタス (施設) (茎葉) 平成 14 年度	乳剤 (1%) 1000 倍 200L/10a 散布	日植防研	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	3	0.014	0.014					0.018	0.017				
			3	7	0.009	0.009					0.008	0.008				
			3	14	<0.001	<0.001					0.005	0.004				
		和歌山植防	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	3	0.018	0.018					0.020	0.019				
			3	7	0.006	0.006					0.014	0.014				
			3	14	0.004	0.004					0.003	0.002				

- : 試料無

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学agro株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)											
					公的分析機関					社内分析機関						
					ビ・メチン[①]		ビ・メチン[①]		ビ・メチン[①]		ビ・メチン[①]		ビ・メチン[①]		ビ・メチン[①]	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
					(株)化学分析コンサルタント											
リーフレタス (非結球レタス) (露地) (茎葉) 平成19年度	乳剤 (1%) 1000倍 200L/10a 散布	福島植防 郡山	0	-	-	-					<0.002	<0.002				
			3	1	-	-					0.149	0.148				
			3	3	-	-					0.035	0.034				
		静岡植防	3	7	-	-					<0.002	<0.002				
			0	-	-	-					<0.002	<0.002				
			3	1	-	-					0.208	0.200				
サラダ菜 (非結球レタス) (施設) (茎葉) 平成20年度	乳剤 (1%) 1000倍 200L/10a 散布	長野農事試	3	3	-	-					0.085	0.082				
			3	7	-	-					0.016	0.016				
			0	-	-	-					<0.002	<0.002				
		愛知農総試	3	1	-	-					0.486	0.476				
			3	3	-	-					0.181	0.179				
			3	7	-	-					0.042	0.040				
食用ぎく (施設) (花器全体) 平成24年度	乳剤 (1%) 2000倍 200L/10a 散布	愛知農総試 (蒲郡)	0	-	-	-					<0.01	<0.01				
			3	1	-	-					0.28	0.28				
			3	3	-	-					0.09	0.09				
		愛知農総試 (豊橋)	3	7	-	-					0.02	0.02				
			0	-	-	-					<0.01	<0.01				
			3	1	-	-					0.20	0.20				
			3	3	-	-					0.10	0.10				
			3	7	-	-					0.03	0.03				

- : 試料無

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤 型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調 製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)											
					公 的 分 析 機 関					社 内 分 析 機 関						
					ビ°メチン[①]		ビ°メチン[①]		ビ°メチン[①]		ビ°メチン[①]		ビ°メチン[①]		ビ°メチン[①]	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
					JA 全農 宮農・技術センター											
きく(葉) (施設) (葉) 平成 24 年度	乳剤 (1%) 2000 倍 200L/10a 散布	愛知農総試 (豊橋)	0	—	-	-					<0.02	<0.02				
			3	3	-	-					0.10	0.10				
			3	7	-	-					<0.02	<0.02				
			3	14	-	-					<0.02	<0.02				
		愛知農総試 (長久手)	0	—	-	-					<0.02	<0.02				
			3	3	-	-					0.13	0.12				
			3	7	-	-					0.03	0.03				
			3	14	-	-							<0.02	<0.02		
					(株) 化学分析コンサルタント											
たまねぎ (露地) (鱗茎) 平成 25 年度 (GLP)	乳剤 (1%) 1000 倍 高知 179L/10a 宮崎 176L/10a 散布	日植防高知	0	—	<0.01	<0.01										
			3	1	<0.01	<0.01										
			3	3	<0.01	<0.01										
			3	7	<0.01	<0.01										
		日植防宮崎	0	—	<0.01	<0.01										
			3	1	<0.01	<0.01										
			3	3	<0.01	<0.01										
			3	7	<0.01	<0.01										
					(財) 日本食品分析センター											
ねぎ (露地) (茎葉) 平成 15 年度	乳剤 (1%) 1000 倍 200L/10a 散布	日植防研 (根深ねぎ)	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	3	<0.001	<0.001					0.002	0.002				
			3	7	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	14	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
		兵庫植防 (葉ねぎ)	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	3	0.002	0.002					0.002	0.002				
			3	7	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	14	<0.001	<0.001							<0.001	<0.001		

- : 試料無

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学agro株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤 型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調 製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)											
					公 的 分 析 機 関					社 内 分 析 機 関						
					比 較 値 [①]		比 較 値 [①]		比 較 値 [①]		比 較 値 [①]		比 較 値 [①]		比 較 値 [①]	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
(株) 化学分析コンサルタント																
アスパラガス (施設) (若茎) 平成 20 年度	乳剤 (1%) 1000 倍 長野 300L/10a 香川 278L/10a 散布	長野植防 南信	0	—	—	—					<0.001	<0.001				
			3	1	—	—					0.028	0.028				
			3	3	—	—					0.003	0.003				
			3	7	—	—					<0.001	<0.001				
		香川農試	0	—	—	—					<0.001	<0.001				
			3	1	—	—					0.005	0.004				
			3	3	—	—					<0.001	<0.001				
			3	7	—	—					<0.001	<0.001				
(株) 化学分析コンサルタント																
セルリー (施設) (茎葉) 平成 25 年度 (GLP)	乳剤 (1%) 1000 倍 茨城 256L/10a 高知 280L/10a 散布	日植防茨城	0	—	<0.01	<0.01										
			3	1	0.17	0.16										
			3	3	0.12	0.12										
			3	7	0.10	0.10										
		日植防高知	0	—	<0.01	<0.01										
			3	1	0.08	0.08										
			3	3	0.03	0.03										
			3	7	0.01	0.01										
(株) 化学分析コンサルタント																
セルリー (施設) (茎葉) 平成 26 年度 (GLP)	乳剤 (1%) 1000 倍 279L/10a 散布	日植防高知	0	—	<0.01	<0.01										
			3	1	0.27	0.27										
			3	3	0.20	0.20										
			3	7	0.11	0.11										
(財) 日本食品分析センター																
トマト (施設) (果実) 平成 16 年度	乳剤 (1%) 1000 倍 250L/10a 散布	日植防研	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	1	0.007	0.006					0.007	0.006				
			3	3	0.002	0.002					0.002	0.002				
			3	7	0.001	0.001					0.002	0.002				
		石川植防	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	1	0.005	0.004					0.007	0.006				
			3	3	0.004	0.004					0.003	0.002				
			3	7	0.002	0.002					0.002	0.002				

- : 試料無

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学agro株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)											
					公的分析機関					社内分析機関						
					ビメチン[①]						ビメチン[①]					
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター					三共agro(株)農業科学研究所						
ミニトマト (施設) (果実) 平成16年度	乳剤(1%) 1000倍 200L/10a 散布	長野植防 松代	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	1	0.075	0.074					0.095	0.089				
			3	7	0.019	0.018					0.030	0.027				
			3	14	0.016	0.016					0.020	0.018				
		宮崎総農	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	1	0.052	0.051					0.075	0.069				
			3	7	0.037	0.036					0.046	0.045				
			3	14	0.033	0.032					0.033	0.033				
ピーマン (露地) (果実) 平成15年度	乳剤(1%) 1000倍 岩手 200L/10a 宮崎 193.3L/10a 散布	岩手植防	0	—	<0.002	<0.002					<0.001	<0.001				
			3	1	0.010	0.010					0.012	0.012				
			3	3	0.005	0.005					0.008	0.007				
			3	7	0.004	0.003					0.002	0.002				
		日植防 宮崎	0	—	<0.002	<0.002					<0.001	<0.001				
			3	1	0.022	0.021					0.028	0.024				
			3	3	0.014	0.013					0.015	0.014				
			3	7	0.007	0.006					0.008	0.007				
なす (施設) (果実) 平成16年度	乳剤(1%) 1000倍 群馬 200L/10a 宮崎 210.8L/10a 散布	群馬植防	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	1	0.005	0.004					0.007	0.006				
			3	3	0.001	0.001					0.001	0.001				
			3	7	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
		日植防 宮崎	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	1	0.029	0.028					0.023	0.022				
			3	3	0.013	0.012					0.012	0.012				
			3	7	0.005	0.005					0.008	0.006				
					(株)化学分析コンサルタント											
甘長とうがらし (施設) (果実) 平成26年度	乳剤(1%) 1000倍 和歌山 200.300L/10a 大分 240L/10a 散布	和歌山植防	0	—	—	—					<0.01	<0.01				
			3	1	—	—					0.15	0.14				
			3	3	—	—					0.08	0.08				
			3	7	—	—					0.04	0.04				
		大分植防	0	—	—	—					<0.01	<0.01				
			3	1	—	—					0.04	0.04				
			3	3	—	—					0.01	0.01				
			3	7	—	—					<0.01	<0.01				

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学agro株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)											
					公的分析機関					社内分析機関						
					比メチル[①]						比メチル[①]					
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
(株)化学分析コンサルタント																
ししとう (施設) (果実) 平成26年度	乳剤 (1%) 1000倍 茨城 189, 265L/10a	日植防茨城	0	-	-	-					<0.01	<0.01				
			3	1	-	-					0.06	0.06				
			3	3	-	-					0.03	0.02				
			3	7	-	-					0.01	0.01				
	250, 280L/10a 高知 散布	日植防高知	0	-	-	-					<0.01	<0.01				
			3	1	-	-					0.11	0.11				
			3	3	-	-					0.06	0.06				
			3	7	-	-					0.02	0.02				
(財)日本食品分析センター																
きゅうり (施設) (果実) 平成22年度 (GLP)	乳剤 (1%) 1000倍 岩手 280L/10a	岩手植防	0	-	<0.01	<0.01										
			3	1	0.02	0.02										
			3	3	<0.01	<0.01										
			3	7	<0.01	<0.01										
	248L/10a 奈良 散布	奈良植防	0	-	<0.01	<0.01										
			3	1	<0.01	<0.01										
			3	3	<0.01	<0.01										
			3	7	<0.01	<0.01										
(株)化学分析コンサルタント																
すいか (施設) (果肉) 平成25年度 (GLP)	乳剤 (1%) 1000倍 石川 250L/10a	石川植防	0	-	<0.01	<0.01										
			3	1	<0.01	<0.01										
			3	3	<0.01	<0.01										
			3	7	<0.01	<0.01										
	279L/10a 高知 散布	日植防高知	0	-	<0.01	<0.01										
			3	1	<0.01	<0.01										
			3	3	<0.01	<0.01										
			3	7	<0.01	<0.01										

- : 試料無

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)											
					公的分析機関						社内分析機関					
					比メチル[①]						比メチル[①]					
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター						三共アグロ(株)農業科学研究所					
メロン (施設) (果肉) 平成15年度	乳剤(1%) 1000倍 石川 300L/10a 宮崎 265.2L/10a 散布	石川植防	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			4	1	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			4	3	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			4	7	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
		日植防 宮崎	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			4	1	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			4	3	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			4	7	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
ほうれんそう (施設) (茎葉) 平成20年度	乳剤(1%) 1000倍 150L/10a 散布	福島植防 郡山	0	—	<0.002	<0.002					<0.002	<0.002				
			3	1	0.624	0.614					0.684	0.683				
			3	3	0.264	0.255					0.304	0.295				
			3	7	0.104	0.104					0.114	0.111				
		三重植防	0	—	<0.002	<0.002					<0.002	<0.002				
			3	1	0.224	0.224					0.172	0.171				
			3	3	0.151	0.151					0.132	0.128				
			3	7	0.104	0.103					0.114	0.113				
					(財)日本食品分析センター						(株)化学分析コンサルタント					
さやいんげん (施設) (さや) 平成22年度	乳剤(1%) 2000倍 日植防 186,194L/10a 岐阜 300L/10a 散布	日植防研	0	—	<0.01	<0.01					<0.01	<0.01				
			3	1	0.02	0.02					0.02	0.02				
			3	3	<0.01	<0.01					<0.01	<0.01				
			3	7	<0.01	<0.01					<0.01	<0.01				
		岐阜植防	0	—	<0.01	<0.01					<0.01	<0.01				
			3	1	<0.01	<0.01					<0.01	<0.01				
			3	3	<0.01	<0.01					<0.01	<0.01				
			3	7	<0.01	<0.01					<0.01	<0.01				
					(株)化学分析コンサルタント											
さやいんげん (施設) (さや) 平成27年度	乳剤(1%) 2000倍 185L/10a	鹿児島 農環協	0	—							<0.01	<0.01				
			3	1							<0.01	<0.01				
			3	3								<0.01	<0.01			
			3	7								<0.01	<0.01			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学agro株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤 型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調 製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)												
					公 的 分 析 機 関						社 内 分 析 機 関						
					比°メチル[①]						比°メチル[①]						
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	
					(株)化学分析コンサルタント												
さやえんどう (施設) (さや) 平成 23 年度	乳剤 (1%) 1000 倍 高知 197L/10a 鹿児島 242L/10a 散布	日植防高知	0	—	-	-							<0.01	<0.01			
			3	1	-	-							0.05	0.04			
			3	3	-	-								0.02	0.02		
			3	7	-	-								<0.01	<0.01		
		鹿児島 農環協	0	—	-	-								<0.01	<0.01		
			3	1	-	-								0.02	0.02		
			3	3	-	-								<0.01	<0.01		
			3	7	-	-								<0.01	<0.01		
					(株)化学分析コンサルタント												
さやえんどう (施設) (さや) 平成 27 年度	乳剤 (1%) 2000 倍 和歌山 300L/10a 高知 181L/10a 散布	和歌山植防	0	—									<0.01	<0.01			
			3	1									<0.01	<0.01			
			3	3										<0.01	<0.01		
			3	7										<0.01	<0.01		
		日植防高知	0	—										<0.01	<0.01		
			3	1										<0.01	<0.01		
			3	3										<0.01	<0.01		
			3	7										<0.01	<0.01		
					(財)日本食品分析センター						三共アグリ(株)農業科学研究所						
えだまめ (露地) (さや) 平成 20 年度	乳剤 (1%) 2000 倍 200L/10a 散布	福島植防 郡山	0	—	<0.001	<0.001							<0.001	<0.001			
			3	1	0.007	0.007							0.006	0.006			
			3	3	0.005	0.005								0.005	0.004		
			3	7	0.002	0.002								0.002	0.002		
		兵庫植防	0	—	<0.001	<0.001								<0.001	<0.001		
			3	1	0.014	0.014								0.014	0.014		
			3	3	0.003	0.003								0.004	0.004		
			3	7	0.001	0.001								0.001	0.001		
					(株)化学分析コンサルタント												
えだまめ (露地) (さや) 平成 27 年度	乳剤 (1%) 2000 倍 189L/10a 散布	青森植防	0	—									<0.01	<0.01			
			3	1									<0.01	<0.01			
			3	3										<0.01	<0.01		
			3	7										<0.01	<0.01		

- : 試料無



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学agro株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)																																																																																																																																																																												
					公的分析機関						社内分析機関																																																																																																																																																																						
					比 <sup>①</sup> 効 <sup>①</sup>		比 <sup>①</sup> 効 <sup>①</sup>		比 <sup>①</sup> 効 <sup>①</sup>		比 <sup>①</sup> 効 <sup>①</sup>		比 <sup>①</sup> 効 <sup>①</sup>		比 <sup>①</sup> 効 <sup>①</sup>																																																																																																																																																																		
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値																																																																																																																																																																	
(株)エコー・リサーチ																																																																																																																																																																																	
えごま (施設) (葉) 平成26年度	乳剤 (1%) 2000倍 200L/10a 散布	愛知農協 (豊川)	0	-	-	-					<0.01	<0.01																																																																																																																																																																					
			3	1	-	-					0.79	0.78																																																																																																																																																																					
			3	3	-	-					0.30	0.30																																																																																																																																																																					
		愛知農協 (豊橋)	3	7	-	-					0.10	0.10																																																																																																																																																																					
			0	-	-	-					<0.01	<0.01																																																																																																																																																																					
			3	1	-	-					0.19	0.19																																																																																																																																																																					
食用プリムラ (施設) (花器全体) 平成25年度	乳剤 (1%) 2000倍 200L/10a 散布	愛知農総試 (豊川)	3	3	-	-					0.06	0.06			3	7	-	-					<0.01	<0.01			0	-	-	-					<0.01	<0.01			3	1	-	-					0.74	0.74			食用プリムラ (施設) (花器全体) 平成26年度	乳剤 (1%) 2000倍 200L/10a 散布	愛知農総試 (豊橋)	3	3	-	-					0.38	0.38			3	7	-	-					0.07	0.07			0	-	-	-					<0.01	<0.01			3	1	-	-					1.77	1.77			しそ (施設) (葉) 平成26年度	乳剤 (1%) 2000倍 200L/10a 散布	愛知農協 (豊川)	3	3	-	-					0.68	0.67			3	7	-	-					0.27	0.27			0	-	-	-					<0.01	<0.01			愛知農協 (豊橋)	3	1	-	-					0.27	0.26			3	3	-	-					0.09	0.09			3	7	-	-					0.04	0.04		
			食用プリムラ (施設) (花器全体) 平成25年度	乳剤 (1%) 2000倍 200L/10a 散布	愛知農総試 (豊川)	3	3	-	-					0.06	0.06																																																																																																																																																																		
						3	7	-	-					<0.01	<0.01																																																																																																																																																																		
						0	-	-	-					<0.01	<0.01																																																																																																																																																																		
3	1	-				-					0.74	0.74																																																																																																																																																																					
食用プリムラ (施設) (花器全体) 平成26年度	乳剤 (1%) 2000倍 200L/10a 散布	愛知農総試 (豊橋)	3	3	-	-					0.38	0.38			3	7	-	-					0.07	0.07			0	-	-	-					<0.01	<0.01			3	1	-	-					1.77	1.77			しそ (施設) (葉) 平成26年度	乳剤 (1%) 2000倍 200L/10a 散布	愛知農協 (豊川)	3	3	-	-					0.68	0.67			3	7	-	-					0.27	0.27			0	-	-	-					<0.01	<0.01			愛知農協 (豊橋)	3	1	-	-					0.27	0.26					3	3	-	-					0.09	0.09			3	7	-	-					0.04	0.04																																																			
			食用プリムラ (施設) (花器全体) 平成26年度	乳剤 (1%) 2000倍 200L/10a 散布	愛知農総試 (豊橋)	3	3	-	-					0.38	0.38																																																																																																																																																																		
						3	7	-	-					0.07	0.07																																																																																																																																																																		
						0	-	-	-					<0.01	<0.01																																																																																																																																																																		
3	1	-				-					1.77	1.77																																																																																																																																																																					
しそ (施設) (葉) 平成26年度	乳剤 (1%) 2000倍 200L/10a 散布	愛知農協 (豊川)	3	3	-	-					0.68	0.67			3	7	-	-					0.27	0.27			0	-	-	-					<0.01	<0.01			愛知農協 (豊橋)	3	1	-	-					0.27	0.26					3	3	-	-					0.09	0.09			3	7	-	-					0.04	0.04																																																																																																						
			しそ (施設) (葉) 平成26年度	乳剤 (1%) 2000倍 200L/10a 散布	愛知農協 (豊川)	3	3	-	-					0.68	0.67																																																																																																																																																																		
						3	7	-	-					0.27	0.27																																																																																																																																																																		
		0				-	-	-					<0.01	<0.01																																																																																																																																																																			
		愛知農協 (豊橋)			3	1	-	-					0.27	0.26																																																																																																																																																																			
					3	3	-	-					0.09	0.09																																																																																																																																																																			
3	7				-	-					0.04	0.04																																																																																																																																																																					

- : 試料無

下線の試験報告書は2016年3月23日提出。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学agro株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤 型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調 製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)											
					公 的 分 析 機 関					社 内 分 析 機 関						
					比°メチル[①]						比°メチル[①]					
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
温州みかん (施設) (果肉) 平成 17 年度	乳剤 (1%) 1000 倍 高知 500L/10a 大分 550L/10a 散布	日植防 高知	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			4	1	<0.001	<0.001					0.002	0.002				
			4	3	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			4	7	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
		大分植防	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			4	1	<0.001	<0.001					0.002	0.002				
			4	3	<0.001	<0.001					0.002	0.002				
			4	7	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
温州みかん (施設) (果皮) 平成 17 年度	乳剤 (1%) 1000 倍 高知 500L/10a 大分 550L/10a 散布	日植防 高知	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			4	1	0.064	0.061					0.070	0.067				
			4	3	0.028	0.027					0.023	0.023				
			4	7	0.017	0.016					0.019	0.018				
		大分植防	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			4	1	0.035	0.034					0.047	0.044				
			4	3	0.028	0.027					0.030	0.028				
			4	7	0.017	0.016					0.018	0.018				

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学agro株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)											
					公的分析機関						社内分析機関					
					ビ・メチル〔①〕						ビ・メチル〔①〕					
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター						三共agro(株)農業科学研究所					
夏みかん (露地) (果実) 平成16年度	乳剤(1%) 1000倍 和歌山 297L/10a 山口 1200-1600L/10a 散布	和歌山 植防	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			4	3	0.006	0.006					0.004	0.004				
			4	7	0.003	0.003					0.003	0.003				
			4	14	<0.001	<0.001					0.003	0.002				
		山口萩 柑試	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			4	3	0.004	0.004					0.005	0.005				
			4	7	0.003	0.003					0.003	0.003				
			4	14	0.001	0.001					0.003	0.002				
すだち (露地) (果実) 平成17年度	乳剤(1%) 1000倍 500L/10a 散布	徳島植防	0	—	-	-					<0.001	<0.001				
			4	3	-	-					0.015	0.014				
			4	7	-	-					0.012	0.012				
			4	14	-	-					0.008	0.007				
ゆず (露地) (果実) 平成14年度	乳剤(1%) 1000倍 和歌山 670L/10a 高知 500L/10a 散布	和歌山 植防	0	—	-	-					<0.001	<0.001				
			2	3	-	-					0.005	0.004				
			2	7	-	-					0.002	0.002				
			2	14	-	-					<0.001	<0.001				
			4	3	-	-					0.004	0.004				
			4	7	-	-					0.003	0.002				
			4	14	-	-					0.001	0.001				
			0	—	-	-					<0.001	<0.001				
		日植防 高知	2	3	-	-					0.009	0.009				
			2	7	-	-					0.003	0.003				
			2	14	-	-					0.001	0.001				
			4	3	-	-					0.011	0.011				
			4	7	-	-					0.004	0.004				
			4	14	-	-					0.002	0.002				
かぼす (露地) (果実) 平成17年度	乳剤(1%) 1000倍 640L/10a 散布	大分植防	0	—	-	-					<0.001	<0.001				
			4	3	-	-					0.005	0.005				
			4	7	-	-					0.002	0.002				
			4	14	-	-					0.002	0.002				

- : 試料無

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学agro株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤 型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調 製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)												
					公 的 分 析 機 関					社 内 分 析 機 関							
					ビ <sup>レ</sup> メ <sup>ン</sup> ①		ビ <sup>レ</sup> メ <sup>ン</sup> ①		ビ <sup>レ</sup> メ <sup>ン</sup> ①		ビ <sup>レ</sup> メ <sup>ン</sup> ①		ビ <sup>レ</sup> メ <sup>ン</sup> ①		ビ <sup>レ</sup> メ <sup>ン</sup> ①		
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	
					(財)日本食品分析センター					三共agro(株)農業科学研究所							
りんご (露地) (果実) 平成16年度	agro (1%) 1000倍 500L/10a 散布	日植防 秋田	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001					
			3	1	0.015	0.015					0.015	0.014					
			3	3	0.010	0.010					0.010	0.010					
			3	7	0.005	0.005					0.008	0.006					
			3	14	0.007	0.006					0.004	0.004					
		長野果試	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001					
			3	1	0.027	0.026					0.031	0.029					
			3	3	0.015	0.015					0.021	0.018					
			3	7	0.010	0.010					0.011	0.010					
			3	14	0.007	0.007					0.009	0.009					
日本なし (露地) (果実) 平成16年度	agro (1%) 1000倍 長野 500L/10a 石川 350L/10a 散布	長野植防 須坂	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001					
			3	1	0.026	0.025					0.029	0.029					
			3	3	0.021	0.020					0.017	0.016					
			3	7	0.011	0.010					0.015	0.015					
			3	14	0.009	0.008					0.011	0.010					
		石川植防	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001					
			3	1	0.019	0.019					0.024	0.021					
			3	3	0.018	0.018					0.019	0.017					
			3	7	0.012	0.012					0.012	0.012					
			3	14	0.007	0.007					0.007	0.007					

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学agro株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)											
					公的分析機関					社内分析機関						
					比メチル[①]		比メチル[①]		比メチル[①]		比メチル[①]		比メチル[①]		比メチル[①]	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター					三共agro(株)農業科学研究所						
もも (露地) (果肉) 平成19年度	agro(1%) 2000倍 400L/10a 散布	長野植防 須坂	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	1	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	3	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	7	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
		福岡農総試	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	1	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	3	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	7	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
もも (露地) (果皮) 平成19年度	agro(1%) 2000倍 400L/10a 散布	長野植防 須坂	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	1	0.106	0.106					0.211	0.210				
			3	3	0.095	0.092					0.081	0.080				
			3	7	0.036	0.036					0.070	0.068				
		福岡農総試	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	1	0.271	0.270					0.688	0.637				
			3	3	0.246	0.244					0.584	0.543				
			3	7	0.194	0.188					0.441	0.427				
					(株)化学分析コンサルタント											
おうとう (露地) (果実) 平成19年度	agro(1%) 2000倍 400L/10a 散布	岩手植防	0	—	-	-					<0.001	<0.001				
			3	1	-	-					0.009	0.009				
			3	3	-	-					0.014	0.014				
			3	7	-	-					<0.001	<0.001				
		秋田 農技センター	0	—	-	-					<0.001	<0.001				
			3	1	-	-					0.020	0.020				
			3	3	-	-					0.027	0.026				
			3	7	-	-					0.009	0.009				

- : 試料無

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学agro株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調 製場所	使用 回数	経過 日数	分析結果 (ppm)											
					公的 分析 機関					社内 分析 機関						
					比 <sup>o</sup> メチル[①]						比 <sup>o</sup> メチル[①]					
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター					三共agro(株)農業科学研究所						
いちご (施設) (果実) 平成16年度	乳剤 (1%) 1000倍 日植防 200L/10a 岐阜 300L/10a 散布	日植防研	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	1	0.097	0.096					0.113	0.110				
			3	3	0.049	0.048					0.039	0.038				
			3	7	0.018	0.018					0.019	0.018				
		岐阜植防	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	1	0.106	0.100					0.117	0.116				
			3	3	0.087	0.087					0.093	0.092				
		3	7	0.078	0.076					0.058	0.056					
ぶどう (施設) (果実) 平成17年度	7077P (1%) 1000倍 300L/10a 散布	長野植防 須坂 (巨峰)	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	1	0.013	0.013					0.019	0.019				
			3	3	0.010	0.010					0.013	0.012				
			3	7	0.008	0.008					0.011	0.010				
		石川砂丘 (テラウア)	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			3	1	0.062	0.062					0.073	0.072				
			3	3	0.056	0.054					0.072	0.070				
		3	7	0.048	0.046					0.044	0.042					

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学agro株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型 (有効成分量) 希釈倍数 又は使用量 使用方法	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)											
					公的分析機関					社内分析機関						
					比 <sup>o</sup> 効 <sup>o</sup> チ <sup>o</sup> ン <sup>o</sup> [①]				比 <sup>o</sup> 効 <sup>o</sup> チ <sup>o</sup> ン <sup>o</sup> [①]				比 <sup>o</sup> 効 <sup>o</sup> チ <sup>o</sup> ン <sup>o</sup> [①]			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター					三共agro(株)農業科学研究所						
茶 (露地) (荒茶) 平成16年度	乳剤(1%) 1000倍 200L/10a 散布	宮崎総農試 茶支	0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			2	7	0.064	0.064					0.054	0.053				
			2	14	0.005	0.004					0.004	0.003				
		鹿児島茶試	2	21	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			0	—	<0.001	<0.001					<0.001	<0.001				
			2	7	0.018	0.018					0.021	0.018				
		茶 (露地) (浸出液) 平成16年度	乳剤(1%) 1000倍 200L/10a 散布	宮崎総農試 茶支	2	14	0.008	0.008					0.006	0.006		
					2	21	0.002	0.002					<0.001	<0.001		
					0	—	—	—					<0.001	<0.001		
鹿児島茶試	2			7	—	—					<0.001	<0.001				
	2			14	—	—					<0.001	<0.001				
	2			21	—	—					<0.001	<0.001				

- : 試料無







本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

## 2. 乳汁試験

### 1) 試験の概要

雌泌乳牛又は山羊にレピメクチンを7日間連続経口投与した。投与開始前日、投与開始後1、3及び7日、最終投与終了後1、3及び5日に乳汁を採取し、レピメクチン濃度を測定した。

### 2) 投与量

雌泌乳牛：本剤の適用作物のうち、乳牛飼料として用いられる可能性のある作物の最大残留量を0.1ppmと想定し、安全率を10倍とした。1日1頭当りレピメクチンが1.0ppm残留する2kgの飼料(摂取量の1/10)を摂取する場合、投与量は「1.0ppm×2kg=2mg/頭」と算出され、レピメクチン2mgをカプセルに封入し、雌泌乳牛に経口投与した。

雌泌乳山羊：レピメクチン0.005mg/kgを食パンに含ませて、雌泌乳山羊に経口投与した。

### 3) 分析対象の化合物

レピメクチン

### 4) 乳汁試験結果

試験機関	(財)畜産生物科学 安全研究所	三共アグロ(株) 農業科学研究所
報告年	2003年	2004年
供試動物	雌泌乳牛2頭	雌泌乳山羊1頭
投与量	2mg/頭/日	0.005mg/kg山羊/日
分 析 値	開始前	<0.005ppm
	投与開始1日後	<0.005ppm
	投与開始3日後	<0.005ppm
	投与開始7日後	<0.005ppm
	投与終了1日後	<0.005ppm
	投与終了3日後	<0.005ppm
	投与終了5日後	<0.005ppm

注) 表中の数値は乳汁中のレピメクチン濃度。

乳牛及び山羊とも、いずれの時点の乳汁からもレピメクチンは検出されなかった。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

### 3. 土壌残留

#### 1) 分析法の原理と操作概要

[レピメクチン〔①〕]

含水アセトニトリル抽出後、液-液分配、カラムクロマトグラフィーで精製し、蛍光誘導化した。生成した誘導化物を HPLC (蛍光検出器) で定量した。

#### 2) 分析対象の化合物

名称	化学名	分子式	分子量	親化合物への換算係数
レピメクチン (親化合物) 〔①〕	(1 <i>R</i> , 14 <i>E</i> , 16 <i>E</i> , 22 <i>Z</i> )-(1 <i>R</i> , 4 <i>S</i> , 5' <i>S</i> , 6 <i>R</i> , 6' <i>R</i> , 8 <i>R</i> , 12 <i>R</i> , 13 <i>S</i> , 20 <i>R</i> , 21 <i>R</i> , 24 <i>S</i> )-21, 24-ジヒドロキシ-12-[(2 <i>Z</i> )-2-メキシミノ-2-フェニルアセトキシ]-5', 6', 11, 13, 22-ペンタメチル-3, 7, 19-トリオキサテトラシクロ[15. 6. 1. 1 <sup>4,8</sup> . 0 <sup>20,24</sup> ]ヘンタコサ-10, 14, 16, 22-テトラエン-6-スビロ-2'-テトラヒドロピラン-2-オン	C <sub>40</sub> H <sub>51</sub> NO <sub>10</sub>	705. 83	—
	(10 <i>E</i> , 14 <i>E</i> , 16 <i>E</i> , 22 <i>Z</i> )-(1 <i>R</i> , 4 <i>S</i> , 5' <i>S</i> , 6 <i>R</i> , 6' <i>R</i> , 8 <i>R</i> , 12 <i>R</i> , 13 <i>S</i> , 20 <i>R</i> , 21 <i>R</i> , 24 <i>S</i> )-6'-エチル-21, 24-ジヒドロキシ-12-[(2 <i>Z</i> )-2-メキシミノ-2-フェニルアセトキシ]-5', 11, 13, 22-テトラメチル-3, 7, 19-トリオキサテトラシクロ[15. 6. 1. 1 <sup>4,8</sup> . 0 <sup>20,24</sup> ]ヘンタコサ-10, 14, 16, 22-テトラエン-6-スビロ-2'-テトラヒドロピラン-2-オン	C <sub>41</sub> H <sub>53</sub> NO <sub>10</sub>	719. 86	

[ ]内は代謝経路図中記号。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

名称	化学名	分子式	分子量	親化合物への換算係数

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

3) 残留試験結果

①容器内試験

推定半減期：比<sup>レ</sup>ムチン<sup>①</sup>

:火山灰土 79日 沖積土 139日

分析機関：三共アグロ(株)農業科学研究所

No.	試料調製及び 採取場所	被験物質の 処理方法		経過 日数	測 定 値 (mg/kg)								
		濃度	回数		比 <sup>レ</sup> ムチン <sup>①</sup>								
					最高値	平均値							
1	(社)日本植物防疫協会 研究所(牛久)  (火山灰土、軽埴土) 畑地 平成15年度	純品  0.2mg/kg  25°C	0	—	<0.005	<0.005							
			1	0	0.183	0.181							
			1	1	0.177	0.164							
			1	3	0.162	0.151							
			1	7	0.155	0.149							
			1	14	0.135	0.132							
			1	21	0.148	0.136							
			1	31	0.122	0.118							
			1	62	0.110	0.104							
			1	97	0.078	0.076							
			1	122	0.073	0.072							
			1	154	0.068	0.066							
			1	184	0.057	0.054							
1	245	0.059	0.052										
1	304	0.048	0.044										
1	360	0.038	0.038										

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

分析機関：三共アグロ(株)農業科学研究所

No.	試料調製及び 採取場所	被験物質の 処理方法		経過 日数	測 定 値 (mg/kg)											
		濃度	回数		比メチン[①]											
					最高値	平均値										
1	(社)日本植物防疫協会 研究所高知試験場  (沖積土、埴壤土) 畑地 平成15年度	純品  0.2mg/kg  25℃	0	—	<0.005											
			1	0	0.195											
			1	1	0.189											
			1	3	0.161											
			1	7	0.181											
			1	14	0.151											
			1	21	0.154											
			1	31	0.145											
			1	62	0.125											
			1	97	0.113											
			1	122	0.107											
			1	154	0.089											
			1	184	0.079											
			1	245	0.071											
1	304	0.065														
1	360	0.058														

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

②圃場試験

推定半減期：比マフィン①

：火山灰土 6日 沖積土 3日

分析機関：三共アグロ(株)農業科学研究所

No.	試料調製及び 採取場所	被験物質の 処理方法		経過 日数	測 定 値 (mg/kg)																	
		濃度	回数		比マフィン①																	
					最高値	平均値																
1	(社)日本植物防疫協会 研究所(牛久)  (火山灰土、軽埴土) 畑地 平成15年度	乳剤(1%)  250倍希釈 300L/10a	0	—	<0.005	<0.005																
			3	0	0.422	0.398																
			3	3	0.288	0.284																
			3	7	0.169	0.168																
			3	14	0.165	0.161																
			3	21	0.174	0.164																
			3	30	0.072	0.072																
			3	60	0.034	0.034																
			3	90	0.012	0.012																
			3	120	0.009	0.009																
			3	151	<0.005	<0.005																
			3	180	<0.005	<0.005																
1	(社)日本植物防疫協会 研究所高知試験場  (沖積土、埴壤土) 畑地 平成15年度	乳剤(1%)  250倍希釈 300L/10a	0	—	<0.005	<0.005																
			3	0	0.221	0.219																
			3	3	0.095	0.094																
			3	7	0.066	0.066																
			3	14	0.060	0.060																
			3	21	0.049	0.048																
			3	29	0.031	0.030																
			3	61	0.019	0.019																
			3	90	0.013	0.012																
			3	120	0.006	0.006																
			3	152	<0.005	<0.005																
			3	180	<0.005	<0.005																



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

## VI. 有用動植物等に及ぼす影響

### 1. 水産動植物に対する影響

資料 No.	試験の種類 ・被験物質	供試生物	1群当 りの 供試数	試験 方法	試験 水温 (°C)	LC50 又は EC50 値 (mg/L)				試験機関 (報告年)	記 載 頁
						24h	48h	72h	96h		
有用 1 GLP	魚類急性毒性試験 原体	コイ <i>Cyprinus carpio</i>	10	流水	20.8~ 22.6	*	*	*	*	(財) 日本食 品分析セン ター (2004年)	64
有用 2 GLP	魚類急性毒性試験 原体	ニジマス <i>Oncorhyn- chus mykiss</i>	10	流水	14.0~ 15.1	>7.2 μg/L	>7.2 μg/L	4.9 μg/L	2.6 μg/L	(財) 日本食 品分析セン ター (2005年)	65
有用 3 GLP	ミジンコ類急性遊泳 阻害試験 原体	オオミジンコ <i>Daphnia magna</i>	20	流水	19.9~ 20.9	>0.26 μg/L	0.13 μg/L			(財) 日本食 品分析セン ター (2004年)	66
有用 4 GLP	ミジンコ類急性遊泳 阻害試験 原体	オオミジンコ (成体) <i>Daphnia magna</i>	20	流水	19.2~ 20.4	0.48 μg/L	0.33 μg/L			(財) 日本食 品分析セン ター (2005年)	67
有用 5 省略	ミジンコ類繁殖試験	提出除外の根拠となる通知：平成13年10月10日付13生産第3986号の 4.(3)の②のア 理由：特許合成阻害等昆虫成長制御作用を有する農薬以外の農薬であるため									68
有用 6 GLP	ミナミヌマエビ 急性毒性試験 原体	ミナミヌマエビ <i>Neocaridina denticulata</i>	10	流水	21.0~ 22.3	5.8 μg/L	3.7 μg/L	2.0 μg/L	1.1 μg/L	(財) 日本食 品分析セン ター (2005年)	69
有用 7 GLP	ヨコエビ 急性毒性試験 原体	ヨコエビ <i>Hyalella azteca</i>	20	流水	21.0~ 21.9	4.2 μg/L	3.3 μg/L	1.6 μg/L	1.0 μg/L	(財) 日本食 品分析セン ター (2006年)	70
有用 8 GLP	セシジコ類幼虫 急性毒性試験 原体	セシジコ類 <i>Chironomus yoshimatsui</i>	20	流水	24.0~ 24.5	0.83 μg/L	0.19 μg/L			(財) 日本食 品分析セン ター (2005年)	71
有用 9 GLP	藻類生長 阻害試験 原体	藻類 <i>Pseudokir- chneriella subcapitata</i>	初期濃度 約10 <sup>4</sup> cells /mL	振とう培 養法	23.2~ 24.1	EbC50 (0-72h) >1.0 ErC50 (0-72h) >1.0				(財) 日本食 品分析セン ター (2004年)	72
有用 10 GLP	魚類急性毒性試験 乳剤 (1.0%)	コイ <i>Cyprinus carpio</i>	10	半 止水	21.3~ 23.1	>4.0	2.9	2.0	1.6	(財) 日本食 品分析セン ター (2004年)	73
有用 11 GLP	ミジンコ類急性遊泳 阻害試験 乳剤 (1.0%)	オオミジンコ <i>Daphnia magna</i>	20	止 水	20.0	0.115	0.081			三共アグロ (株) (2005年)	74
有用 12 GLP	藻類生長 阻害試験 乳剤 (1.0%)	藻類 <i>Pseudokir- chneriella subcapitata</i>	初期濃度 約10 <sup>4</sup> cells /mL	振とう培 養法	22.9~ 23.5	EbC50 (0-72h) 0.28 ErC50 (0-72h) 0.77				(財) 日本食 品分析セン ター (2004年)	75
有用 13 GLP	魚類急性毒性試験 7077 (1.0%)	コイ <i>Cyprinus carpio</i>	10	半 止水	21.8~ 22.8	1000	460	220	160	(財) 日本食 品分析セン ター (2004年)	76
有用 14 GLP	ミジンコ類急性遊泳 阻害試験 7077 (1.0%)	オオミジンコ <i>Daphnia magna</i>	20	止 水	20.0	2.63 μg/L	1.09 μg/L			三共アグロ (株) (2005年)	77
有用 15 GLP	藻類生長 阻害試験 7077 (1.0%)	藻類 <i>Pseudokir- chneriella subcapitata</i>	初期濃度 約10 <sup>4</sup> cells /mL	振とう培 養法	23.0~ 23.7	EbC50 (0-72h) 210 ErC50 (0-72h) 790				(財) 日本食 品分析セン ター (2004年)	78

\* 実測濃度に基づく値

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

## 水産動植物への影響に関する試験

### (1) 原体

#### 1) 魚類急性毒性試験

コイを用いた急性毒性試験

(資料 No. 有用1)

試験機関 (財)日本食品分析センター多摩研究所  
[GLP 対応]

報告書作成年 2004 年

被験物質：レピメクチン原体

供試生物：コイ (学名 *Cyprinus carpio*)

1 群各 10 尾、体長；4.9~5.7cm (平均 5.2cm)、体重；1.3~1.9g (平均 1.6g)

方法：被験物質をジメチルスルホキシドに溶解させ、各濃度ごとに調製した被験物質溶液と希釈水を連続的に混合して試験水を調製し、試験容器内に供給した。

暴露条件及び環境条件；

- ① 暴露方式；流水式 (流量；50mL/分)
- ② 暴露期間；96 時間
- ③ 試験水量；9L
- ④ 試験容器；10L 容角形ガラス製水槽
- ⑤ 試験水温；20.8~22.6℃
- ⑥ 照明；16 時間明期
- ⑦ 給餌；無給餌
- ⑧ 溶存酸素濃度；7.5~8.8mg/L
- ⑨ 試験水の pH；7.1~7.5
- ⑩ 希釈水；水道水を脱塩素したもの

結果：

試験濃度 [実測濃度] (mg/L)	0, 0.00075, 0.00148, 0.00308, 0.00452, 0.0232, 0.0621, 0.113	
LC50 (mg/L) (95%信頼限界)	24h	0.038 (0.027~0.052)
	48h	0.0086
	72h	0.0086
	96h	0.0086
NOEC (mg/L)	0.0015	
死亡例の認められなかつた最高濃度 (mg/L)	0.00308	

症状としては、0.00308mg/L 以上の濃度で異常遊泳、不活発及び横転等が観察された。なお、0.113mg/L では 24 時間後に全例が死亡したため観察できなかった。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

## ニジマスを用いた急性毒性試験

(資料 No. 有用 2)

試験機関 (財)日本食品分析センター多摩研究所  
[GLP 対応]

報告書作成年 2005 年

被験物質：レピメクチン原体

供試生物：ニジマス (学名 *Oncorhynchus mykiss*)

1 群各 10 尾、体長；5.1~5.5cm (平均 5.2cm)、体重；1.1~1.5g (平均 1.2g)

方 法：被験物質を *N,N*-ジメチルホルムアミド に溶解させ、各濃度ごとに調製した被験物質溶液と希釈水を連続的に混合して試験水を調製し、試験容器内に供給した。

暴露条件及び環境条件；

- ① 暴露方式；流水式 (流量；50mL/分)
- ② 暴露期間；96 時間
- ③ 試験水量；9L
- ④ 試験容器；10L 容角形ガラス製水槽
- ⑤ 試験水温；14.0~15.1°C
- ⑥ 照 明；16 時間明期
- ⑦ 給 餌；無給餌
- ⑧ 溶存酸素濃度；8.5~9.8mg/L
- ⑨ 試験水の pH；7.5~7.9
- ⑩ 希 釈 水；水道水を脱塩素したもの

結 果：

試験濃度 [実測濃度] ( $\mu\text{g/L}$ )	0, 0.038, 0.106, 0.282, 0.578, 1.52, 3.27, 7.23	
LC50 ( $\mu\text{g/L}$ ) (95%信頼限界)	24h	>7.2
	48h	>7.2
	72h	4.9
	96h	2.6 (1.9~3.6)
NOEC ( $\mu\text{g/L}$ )	0.58	
死亡例の認められなかつた最高濃度 ( $\mu\text{g/L}$ )	0.578	

症状としては、3.27  $\mu\text{g/L}$  で異常遊泳及び不活発が、7.23  $\mu\text{g/L}$  で体色の変化、不活発及び横転が観察された。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

## 2) ミジンコ類急性遊泳阻害試験

オオミジンコを用いた急性遊泳阻害試験

(資料 No. 有用3)

試験機関 (財)日本食品分析センター多摩研究所  
[GLP 対応]

報告書作成年 2004 年

被験物質：レピメクチン原体

供試生物：オオミジンコ (学名 *Daphnia magna*)

1 群各 20 頭 (生後 24 時間以内の個体)

方法：被験物質をジメチルホルムジドに溶解させ、各濃度ごとに調製した被験物質溶液と希釈水を連続的に混合して試験水を調製し、試験容器内に供給した。

暴露条件及び環境条件；

- ① 暴露方式；流水式 (流量；50mL/分)
- ② 暴露期間；48 時間
- ③ 試験水量；9L
- ④ 試験容器；10L 容角形ガラス製水槽
- ⑤ 試験水温；19.9~20.9℃
- ⑥ 照明；16 時間明期
- ⑦ 給餌；無給餌
- ⑧ 溶存酸素濃度；8.8~9.0mg/L
- ⑨ 試験水の pH；7.4~7.7
- ⑩ 希釈水；水道水を脱塩素したもの

結果：

試験濃度 [実測濃度] ( $\mu\text{g/L}$ )	0, 0.025, 0.031, 0.079, 0.145, 0.259	
EC50 ( $\mu\text{g/L}$ ) (95%信頼限界)	24h	>0.26
	48h	0.13
NOEC ( $\mu\text{g/L}$ )	0.079	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

オオミジンコ (成体) を用いた急性遊泳阻害試験

(資料 No. 有用 4)

試験機関 (財) 日本食品分析センター多摩研究所  
[GLP 対応]

報告書作成年 2005 年

被験物質: レピメクチン原体

供試生物: オオミジンコ (学名 *Daphnia magna*)

1 群各 20 頭 (生後 7 日齢の個体)

方法: 被験物質を *N,N*-ジメチルホルムアミド に溶解させ、各濃度ごとに調製した被験物質溶液と希釈水を連続的に混合して試験水を調製し、試験容器内に供給した。

暴露条件及び環境条件;

- ① 暴露方式; 流水式 (流量; 50mL/分)
- ② 暴露期間; 48 時間
- ③ 試験水量; 9L
- ④ 試験容器; 10L 容角形ガラス製水槽
- ⑤ 試験水温; 19.2~20.4°C
- ⑥ 照明; 16 時間明期
- ⑦ 給餌; 無給餌
- ⑧ 溶存酸素濃度; 8.7~8.9mg/L
- ⑨ 試験水の pH; 8.0~8.1
- ⑩ 希釈水; 水道水を脱塩素したもの

結果:

試験濃度 [実測濃度] ( $\mu\text{g/L}$ )	0, 0.059, 0.155, 0.357, 0.652, 1.32	
EC50 ( $\mu\text{g/L}$ ) (95%信頼限界)	24h	0.48
	48h	0.33 (0.27~0.39)
NOEC ( $\mu\text{g/L}$ )	0.059	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

3) ミジンコ類繁殖試験

試験未実施

(資料 No. 有用 5)

提出除外の根拠となる通知：

平成 13 年 10 月 10 日付 13 生産第 3986 号の 4. (3) の②のア

理由：キチン合成阻害等昆虫成長制御作用を有する農薬以外の農薬であるため

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

#### 4) ミナミヌマエビ急性毒性試験

ミナミヌマエビを用いた急性毒性試験

(資料 No. 有用6)

試験機関 (財)日本食品分析センター多摩研究所  
[GLP 対応]

報告書作成年 2005 年

被験物質：レピメクチン原体

供試生物：ミナミヌマエビ (学名 *Neocaridina denticulata*)

1 群各 10 個体、体長；1.9~2.1cm (平均 2.0cm)、体重；0.05~0.07g (平均 0.07g)

方 法：被験物質を *N,N*-ジメチルホルムアミド に溶解させ、各濃度ごとに調製した被験物質溶液と希釈水を連続的に混合して試験水を調製し、試験容器内に供給した。

暴露条件及び環境条件；

- ① 暴露方式；流水式 (流量；50mL/分)
- ② 暴露期間；96 時間
- ③ 試験水量；9L
- ④ 試験容器；10L 容角形ガラス製水槽
- ⑤ 試験水温；21.0~22.3°C
- ⑥ 照 明；16 時間明期
- ⑦ 給 餌；無給餌
- ⑧ 溶存酸素濃度；8.1~8.7mg/L
- ⑨ 試験水の pH；8.0
- ⑩ 希 釈 水；水道水を脱塩素したもの

結 果：

試験濃度 [実測濃度] ( $\mu\text{g/L}$ )	0.06, 0.22, 0.46, 1.18, 2.57, 5.71, 13.5	
LC50 ( $\mu\text{g/L}$ ) (95%信頼限界)	24h	5.8 (4.0 ~8.9)
	48h	3.7 (2.5 ~5.5)
	72h	2.0 (1.5 ~2.8)
	96h	1.1 (0.74~1.7)
NOEC ( $\mu\text{g/L}$ )	0.22	
死亡例の認められなかつた最高濃度 ( $\mu\text{g/L}$ )	0.22	

症状としては、1.18 及び 2.57  $\mu\text{g/L}$  で体色の変化及び不活発が、5.71  $\mu\text{g/L}$  で体色の変化及び横転が、13.5  $\mu\text{g/L}$  で体色の変化及び不活発が観察された。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

5) ヨコエビ急性毒性試験

ヨコエビを用いた急性毒性試験

(資料 No. 有用7)

試験機関 (財)日本食品分析センター多摩研究所  
[GLP 対応]

報告書作成年 2006 年

被験物質：レピメクチン原体

供試生物：ヨコエビ (学名 *Hyalella azteca*)

1 群各 20 個体、全長；2.7~3.0mm (平均 2.8mm)

方 法：被験物質を *N,N*-ジメチルホルムアミドに溶解させ、各濃度ごとに調製した被験物質溶液と希釈水を連続的に混合して試験水を調製し、試験容器内に供給した。

暴露条件及び環境条件；

- ① 暴露方式；流水式 (流量；75mL/分)
- ② 暴露期間；96 時間
- ③ 試験水量；9L
- ④ 試験容器；10L 容角形ガラス製水槽
- ⑤ 試験水温；21.0~21.9°C
- ⑥ 照 明；16 時間明期
- ⑦ 給 餌；無給餌
- ⑧ 溶存酸素濃度；8.3~8.7mg/L
- ⑨ 試験水の pH；7.5~7.7
- ⑩ 希 釈 水；水道水を脱塩素したもの

結 果：

試験濃度 [実測濃度] ( $\mu\text{g/L}$ )	0.09, 0.18, 0.48, 1.08, 1.91, 4.01, 9.73	
LC50 ( $\mu\text{g/L}$ ) (95%信頼限界)	24h	4.2 (3.3 ~5.7)
	48h	3.3 (2.5 ~4.6)
	72h	1.6 (1.2 ~2.2)
	96h	1.0 (0.74~1.4)
NOEC ( $\mu\text{g/L}$ )	0.09	
死亡例の認められなかつた最高濃度 ( $\mu\text{g/L}$ )	0.09	

症状としては、不活発が観察された。



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

6) セスジユスリカ幼虫急性毒性試験

セスジユスリカ幼虫を用いた急性毒性試験

(資料 No. 有用 8)

試験機関 (財)日本食品分析センター多摩研究所  
[GLP 対応]

報告書作成年 2005 年

被験物質：レピメクチン原体

供試生物：セスジユスリカ幼虫 (学名 *Chironomus yoshimatsui*)

1 群各 20 個体

方法：被験物質を *N,N*-ジメチルホルムアミド に溶解させ、各濃度ごとに調製した被験物質溶液と希釈水を連続的に混合して試験水を調製し、試験容器内に供給した。

暴露条件及び環境条件；

- ① 暴露方式；流水式 (流量；50mL/分)
- ② 暴露期間；48 時間
- ③ 試験水量；9L
- ④ 試験容器；10L 容角形ガラス製水槽
- ⑤ 試験水温；24.0~24.5℃
- ⑥ 照明；16 時間明期
- ⑦ 給餌；無給餌
- ⑧ 溶存酸素濃度；7.9~8.4mg/L
- ⑨ 試験水の pH；7.9~8.0
- ⑩ 希釈水；水道水を脱塩素したもの

結果：

試験濃度 [実測濃度] ( $\mu\text{g/L}$ )	0, 0.003, 0.013, 0.029, 0.098, 0.389, 1.38, 4.22	
LC50 ( $\mu\text{g/L}$ ) (95%信頼限界)	24h	0.83 (0.61~1.2)
	48h	0.19 (0.12~0.30)
NOEC ( $\mu\text{g/L}$ )	0.003	
死亡例の認められなかつた最高濃度 ( $\mu\text{g/L}$ )	0.003	

症状としては、0.003、0.013 及び 0.029  $\mu\text{g/L}$  で不活発が、0.098  $\mu\text{g/L}$  で体の萎縮、体色の変化及び不活発が、0.389 及び 1.38  $\mu\text{g/L}$  で体の萎縮及び不活発が観察された。なお、4.22  $\mu\text{g/L}$  では 24 時間後に全て死亡したため観察はできなかった。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

## 7) 藻類生長阻害試験

(資料No. 有用9)

試験機関 (財)日本食品分析センター多摩研究所  
[GLP 対応]

報告書作成年 2004年

被験物質：レピメクチン原体

供試生物：藻類 (学名 *Pseudokirchneriella subcapitata*, ATCC22662 株)

初期細胞濃度 約  $1 \times 10^4$  cells/mL

方法：被験物質をジメチルホルムジドに溶解させ、被験物質原液を調製し、さらに試験培地に無菌操作により添加して試験水を調製した。

暴露条件及び環境条件；

- ① 暴露(培養)方式；振とう培養法(100r/min.)
- ② 暴露期間；72時間
- ③ 連数；3連/1試験区
- ④ 試験容器；300mL 容量製三角フラスコ(通気性シコ栓付)
- ⑤ 試験培地の量；100mL/1連
- ⑥ 試験水温；23.2~24.1℃
- ⑦ 照明；連続照射(フラスコ液面付近での照度；4000~4100Lx.)
- ⑧ 試験水のpH；7.3~7.7

結果：

試験濃度[設定濃度*] (mg/L)	0, 1.0
E b C 50 (mg/L)	(0~72h) >1.0
E r C 50 (mg/L)	(24~48h) >1.0 (24~72h) >1.0 (0~72h) >1.0
NOEC (mg/L)	(面積法 0~72h) 1.0 (速度法 24~48h) 1.0 (速度法 24~72h) 1.0 (速度法 0~72h) 1.0

\* 有効成分濃度

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

(2) 製剤 (1.0%乳剤)

1) 魚類急性毒性試験

コイを用いた急性毒性試験

(資料No. 有用10)

試験機関 (財)日本食品分析センター多摩研究所  
[GLP対応]

報告書作成年 2004年

被験物質：レピメクチン乳剤 (1.0%)

供試生物：コイ (学名 *Cyprinus carpio*)

1群各10尾、体長；5.2~5.7cm(平均5.5cm)、体重；1.9~2.5g(平均2.2g)

方法：被験物質を希釈水に懸濁又は添加して各試験水を調製した。

暴露条件及び環境条件；

- ① 暴露方式；半止水式 (24時間毎全量換水)
- ② 暴露期間；96時間
- ③ 試験水量；50L
- ④ 試験容器；50L容角形ガラス製水槽
- ⑤ 試験水温；21.3~23.1℃
- ⑥ 照明；16時間明期
- ⑦ 給餌；無給餌
- ⑧ 溶存酸素濃度；6.1~9.2mg/L
- ⑨ 試験水のpH；7.5~8.1
- ⑩ 希釈水；水道水を脱塩素したもの

結果：

試験濃度 [設定濃度] (mg/L)	0, 0.25, 0.40, 0.65, 1.0, 1.6, 2.5, 4.0	
LC50 (mg/L) (95%信頼限界)	24h	>4.0
	48h	2.9
	72h	2.0 (1.7~2.4)
	96h	1.6 (1.3~2.0)
NOEC (mg/L)	0.25	
死亡例の認められなかつた最高濃度 (mg/L)	0.65	

症状としては、0.40mg/L以上の濃度で体色の変化、異常遊泳、眼球の突出、不活発、横転及び水面浮上が観察された。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

## 2) ミジンコ類急性遊泳阻害試験

(資料No. 有用11)

試験機関 三共アグロ(株)農業科学研究所

[GLP対応]

報告書作成年 2005年

被験物質：レピメクチン乳剤 (1.0%)

供試生物：オオミジンコ (学名 *Daphnia magna*)

1群各20頭 [10頭2連] (生後24時間以内令の幼体)

方法：被験物質に希釈水を加えて各試験水を調製した。

暴露条件及び環境条件；

- ① 暴露方式；48時間止水式
- ② 暴露期間；48時間
- ③ 試験水量；200mL/1連
- ④ 試験容器；200mL 容ト-ルビ-カ-
- ⑤ 試験水温；20.0℃
- ⑥ 照明；16時間明、8時間暗
- ⑦ 給餌；無給餌
- ⑧ 溶存酸素濃度；飽和溶存酸素濃度の90.7~93.8%
- ⑨ 試験水のpH；7.5~7.8
- ⑩ 希釈水；活性炭処理した脱塩素水道水

結果：

試験濃度 [設定濃度] (mg/L)	0, 0.023, 0.041, 0.069, 0.118, 0.2	
EC50 (mg/L) (95%信頼限界)	3h	>0.2
	24h	0.115 (0.101~0.131)
	48h	0.081 (0.072~0.092)
NOEC (mg/L)	0.041	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

### 3) 藻類生長阻害試験

(資料 No. 有用 1 2)

試験機関 (財)日本食品分析センター多摩研究所  
[GLP 対応]

報告書作成年 2004 年

被験物質：レピメクチン乳剤 (1.0%)

供試生物：藻類 (学名 *Pseudokirchneriella subcapitata*, ATCC22662 株)

初期細胞濃度 約  $1 \times 10^4$  cells/mL

方法：被験物質を試験培地に懸濁させ、さらに試験培地に無菌操作により添加して各試験液を調製した。

暴露条件及び環境条件；

- ① 暴露 (培養) 方式；振とう培養法 (100r/min.)
- ② 暴露期間；72 時間
- ③ 連 数；3 連/1 試験区
- ④ 試験容器；300mL 容が 3 連製三角フラスコ (通気性シリコ栓付)
- ⑤ 試験培地の量；100mL/1 連
- ⑥ 試験水温；22.9~23.5°C
- ⑦ 照 明；連続照射 (フラスコ液面付近での照度；4000~4200Lx.)
- ⑧ 試験水の pH；7.3~7.9

結 果：

試験濃度 [設定濃度] (mg/L)	0, 0.022, 0.046, 0.10, 0.22, 0.46, 1.0, 2.2
E b C50 (mg/L) (95%信頼限界)	( 0~72h) 0.28 (0.24~0.32)
E r C50 (mg/L) (95%信頼限界)	(24~48h) 0.79 (0.62~1.0 ) (24~72h) 0.68 (0.58~0.79) ( 0~72h) 0.77 (0.67~0.89)
NOEC (mg/L)	(面積法 0~72h) 0.10 (速度法 24~48h) 0.46 (速度法 24~72h) 0.22 (速度法 0~72h) 0.10

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

(3) 製剤 (1.0%フロアブル)

1) 魚類急性毒性試験

コイを用いた急性毒性試験

(資料 No. 有用13)

試験機関 (財)日本食品分析センター多摩研究所  
[GLP 対応]

報告書作成年 2004 年

被験物質：レピメクチン水和剤 (1.0% フロアブル)

供試生物：コイ (学名 *Cyprinus carpio*)

1 群各 10 尾、体長；5.3~5.5cm (平均 5.4cm)、体重；1.8~2.2g (平均 2.0g)

方 法：被験物質を希釈水に懸濁又は添加して各試験水を調製した。

暴露条件及び環境条件；

- ① 暴露方式；半止水式 (24 時間毎全量換水)
- ② 暴露期間；96 時間
- ③ 試験水量；50L
- ④ 試験容器；50L 容角形ガラス製水槽
- ⑤ 試験水温；21.8~22.8℃
- ⑥ 照 明；16 時間明期
- ⑦ 給 餌；無給餌
- ⑧ 溶存酸素濃度；6.5~9.5mg/L
- ⑨ 試験水の pH；7.2~8.2
- ⑩ 希 釈 水；水道水を脱塩素したもの

結 果：

試験濃度 [設定濃度] (mg/L)	0, 0.32, 1.0, 3.2, 10, 32, 100, 320, 1000	
LC50 (mg/L) (95%信頼限界)	24h	1000
	48h	460
	72h	220
	96h	160
NOEC (mg/L)	0.32	
死亡例の認められなかつた最高濃度 (mg/L)	32	

症状としては、1.0mg/L 以上の濃度で体色の変化、異常遊泳、眼球の突出、不活発及び横転が観察された。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

## 2) ミジンコ類急性遊泳阻害試験

(資料 No. 有用 1 4)

試験機関 三共アグロ(株)農業科学研究所

[GLP 対応]

報告書作成年 2005 年

被験物質：レピメクチン水和剤 (1.0% 7077 $\mu$ l)

供試生物：オオミジンコ (学名 *Daphnia magna*)

1 群各 20 頭 [10 頭 2 連] (生後 24 時間以内令の幼体)

方 法：被験物質に希釈水を加えて各試験水を調製した。

暴露条件及び環境条件；

- ① 暴露方式；48 時間止水式
- ② 暴露期間；48 時間
- ③ 試験水量；200mL/1 連
- ④ 試験容器；200mL 容トルビ<sup>®</sup>-カ
- ⑤ 試験水温；20.0 $^{\circ}$ C
- ⑥ 照 明；16 時間明、8 時間暗
- ⑦ 給 餌；無給餌
- ⑧ 溶存酸素濃度；飽和溶存酸素濃度の 90.4~96.8%
- ⑨ 試験水の pH；7.7~7.8
- ⑩ 希 釈 水；活性炭処理した脱塩素水道水

結 果：

試験濃度 [設定濃度] ( $\mu$ g/L)	0, 0.04, 0.12, 0.36, 1.1, 3.2, 9.7	
EC50 ( $\mu$ g/L) (95%信頼限界)	3h	>9.7
	24h	2.63 (1.70~4.42)
	48h	1.09 (0.69~1.79)
NOEC ( $\mu$ g/L)	0.04	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

### 3) 藻類生長阻害試験

(資料No. 有用15)

試験機関 (財)日本食品分析センター多摩研究所  
[GLP 対応]

報告書作成年 2004年

被験物質：レピメクチン水和剤 (1.0% フロアブル)

供試生物：藻類 (学名 *Pseudokirchneriella subcapitata*, ATCC22662 株)

初期細胞濃度 約  $1 \times 10^4$  cells/mL

方法：被験物質を試験培地に懸濁させ、さらに試験培地に無菌操作により添加して各試験液を調製した。

暴露条件及び環境条件；

- ① 暴露(培養)方式；振とう培養法(100r/min.)
- ② 暴露期間；72時間
- ③ 連数；3連/1試験区
- ④ 試験容器；300mL 容ガラス製三角フラスコ(通気性シロ栓付)
- ⑤ 試験培地の量；100mL/1連
- ⑥ 試験水温；23.0~23.7℃
- ⑦ 照明；連続照射(フラスコ液面付近での照度；4100~4200Lx.)
- ⑧ 試験水の pH；7.5~8.0

結果：

試験濃度 [設定濃度] (mg/L)	0, 0.32, 1.0, 3.2, 10, 32, 100, 320, 1000
E b C 50 (mg/L) (95%信頼限界)	(0~72h) 210 (160~260)
E r C 50 (mg/L) (95%信頼限界)	(24~48h) 610 (24~72h) 560 (0~72h) 790 (680~950)
NOEC (mg/L)	(面積法 0~72h) 10 (速度法 24~48h) 320 (速度法 24~72h) 100 (速度法 0~72h) 100



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

2. 水産動植物以外の有用生物に対する影響

2-1 蚕

資料 No.	被験物質	供試生物	1区当りの供試数	試験方法	試験結果	試験機関 (報告年)
有用 16	乳剤 (1.0%)	蚕 ぐんま×200 4 齢起	50 頭/連 2 連制	晩秋蚕期 添食開始日の 10、20、 30、40、50、60 日前に 1000 倍液を十分量散布し、 4 齢期間中連続給桑した。	散布後 10 日区では、4 眠蚕から 5 齢起蚕への脱皮が正常に行えずに 14% の蚕が致死した。散布後 20 日以降の区では、悪影響は認められなかった。 本剤の蚕に対する安全基準日数は 20 日と考えられる。	群馬県蚕業試験場 (2003 年)
有用 17	水和剤 (1.0% 7077M)	蚕 ぐんま×200 4 齢起	50 頭/連 2 連制	夏蚕期 添食開始日の 10、15、 20、24、30 日前に 1000 倍液を十分量散布し、 4 齢期間中連続給桑した。 初秋蚕期 添食開始日の 40、45、 50、54、60 日前に 1000 倍液を十分量散布し、 4 齢期間中連続給桑した。	夏蚕期 全試験区で食桑直後から中毒症状がみられ、3 日目までに全頭致死した。 初秋蚕期 全試験区で夏蚕期同様の中毒症状を示し、散布後 60 日区でも 3 日目までに全頭致死した。 本剤の蚕に対する安全基準日数は 60 日以上と考えられる。	群馬県蚕業試験場 (2004 年)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

2-2 ミツバチ

資料 No.	被験物質	供試生物	1区当りの供試数	試験方法	試験結果	試験機関 (報告年)
有用 18 GLP	原体	セイヨウミツバチ働きバチ	10頭/反復 3反復	経口投与毒性 0, 3, 125, 6, 25, 12, 5, 25, 50, 100 $\mu\text{g}$ a. s. /bee 含有白糖液を経口投与し、4, 24, 48, 72, 96 時間後に累積死亡数を調査した。	LD50 ( $\mu\text{g}$ a. s. /bee) 24h 28. 8 48h 5. 09 96h 3. 23	Huntingdon Life Sciences (2005年)
				接触投与毒性 0, 3, 125, 6, 25, 12, 5, 25, 50, 100 $\mu\text{g}$ a. s. /bee 含有アクトン液を胸部背面に投与し、4, 24, 48, 72, 96 時間後に累積死亡数を調査した。	LD50 ( $\mu\text{g}$ a. s. /bee) 24h 11. 1 48h 2. 59 96h 1. 9	
有用 19	乳剤 (1.0%)	セイヨウミツバチ働きバチ 7日齢	25頭/反復 3反復	殺虫性試験 希釈液 (250, 500, 1000, 2000, 4000, 8000 倍) を直接虫体に体表面が完全に覆われるまで散布し、1, 24, 48, 72 時間後に累積死亡数を調査した。	全ての処理区及び無処理区で死亡個体は認められなかった。	三重大学 (2003年)
				群態への影響 1000 倍希釈液を 120L/ハウス散布し、約 10 時間後に巣箱を導入し、30 日後まで行動、死亡数、翅型異常バチの出現数、蜂児の異常等を調査した。	散布 15~25 日後に翅型異常働きバチが少数 (3. 5%) 出現した。4~20 日後に異常蜂児 (6. 0%) がみられた。	
				訪花活動への影響 上記のハウス内のイコへの訪花延個体数を 10 日後まで調査した。	散布後 2 日間、訪花個体数がやや少なかった。	
有用 20	水和剤 (1.0% アクトン)	セイヨウミツバチ働きバチ >20 日齢	25頭/反復 3反復	殺虫性試験 希釈液 (250, 500, 1000, 2000, 4000, 8000 倍) を直接虫体に体表面が完全に覆われるまで散布し、1, 24, 48, 72 時間後に累積死亡数を調査した。	全ての処理区及び無処理区で死亡個体は認められなかった。	三重大学 (2004年)
				群態への影響 1000 倍希釈液を 140L/10a 散布し、約 10 時間後に巣箱を導入し、30 日後まで行動、死亡数、翅型異常バチの出現数、蜂児の異常等を調査した。	散布 15~25 日後に翅型異常働きバチが少数 (6. 5%) 出現した。4~20 日後に異常蜂児 (7. 0%) がみられた。	
				訪花活動への影響 上記のハウス内のイコへの訪花延個体数を 10 日後まで調査した。	散布後 2 日間、訪花個体数がやや少なかった。	



本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

2-4


2-5 天敵

資料 No.	被験物質	供試生物	1区当りの供試数	試験方法	試験結果	試験機関 (報告年)
有用 24	乳剤 (1.0%)	イゲアヒメコハチ成虫 <i>Diglyphus isaea</i>	10頭/連 2連制	ドライフィルム法 管瓶内壁を1000倍 希釈液で濡らし、乾 燥後に成虫を入れ、 接触開始24、48時間 後に死亡数を調査し た。2連制とした。	補正死亡率 24h 6% 48h 7% 接触毒性は認め られなかった。	三共アグロ (株) 農業科学 研究所 (2005年)
		ハセグリコマコハチ成虫 <i>Dacnusa sibirica</i>	10頭/連 2連制		補正死亡率 24h 1% 48h 44% 接触毒性が認め られたが、その 程度は低いと判 断された。	
		シヨクガタマハチ成虫 <i>Aphidoletes aphidimyza</i>	10~15 頭/連 2連制	ドライフィルム法 管瓶内壁を1000倍 希釈液で濡らし、乾 燥後に成虫を入れ、 接触開始24時間後 に死亡数を調査し た。2連制とした。	補正死亡率 24h 29% 接触毒性が認め られたが、その 程度は低いと判 断された。	
		タイリクヒメカハチ成虫 <i>Orius similis Zheng</i>	5頭/連 4連制	ドライフィルム法 管瓶内壁を1000、 2000倍希釈液で濡 らし、乾燥後に成虫 を入れ、接触開始24 及び48時間後に死 亡数を調査した。 4連制とした。	補正死亡率 24h 0% 48h 0% 接触毒性は認め られなかった。	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

2-6 鳥類

資料 No.	試験の種類・被験物質	供試生物	1群当りの供試数	投与方法	投与量	LD50 又は LC50 無影響量	観察された影響等	試験機関 (報告年)
有用 25 GLP	急性経口毒性試験 原体 14日間観察	マガモ	♂5 ♀5	強制経口投与	0, 500, 1000, 2000 (mg/kg)	LD50 ♂♀ >2000 NOEL 2000 (mg/kg)	死亡も臨床症状も認められなかった。	Huntingdon Life Sciences (2005年)
有用 26 GLP	急性経口毒性試験 原体 14日間観察	コリンウズラ	♂5 ♀5	強制経口投与	0, 500, 1000, 2000 (mg/kg)	LD50 ♂♀ >2000 NOEL 2000 (mg/kg)	死亡も臨床症状も認められなかった。	
有用 27 GLP	混餌投与毒性試験 原体 8日間観察	マガモ	10	5日間混餌投与	0, 156, 313, 625, 1250, 2500, 5000 (ppm)	LC50 >5000 NOEC 625 (ppm)	5000ppm 群で3例、2500ppm 群で1例が死亡し、1250ppm 以上の群で体重増加抑制及び摂餌量の減少が認められた。	
有用 28 GLP	混餌投与毒性試験 原体 8日間観察	コリンウズラ	10	5日間混餌投与	0, 156, 313, 625, 1250, 2500, 5000 (ppm)	LC50 >5000 NOEC 1250 (ppm)	死亡はみられなかったが、2500ppm 以上の群で体重増加抑制が認められた。	

2-7


本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

2 - 8

(

(